

# 児童福祉学科



## ■ 児童福祉学科 目次

教養科目	
文章表現実践	1
日本国憲法	2
情報科学	3
外国語 A	4
外国語 B	5
体育講義	6
体育実技	7
保育の本質・目的に関する科目	
保育原理	8
教育原理	9
子ども家庭福祉	10
社会福祉	11
子ども家庭支援論	12
社会的養護 I	13
保育者論	14
保育の対象の理解に関する科目	
保育の心理学	15
子ども家庭支援の心理学	16
子どもの保健	17
子どもの理解と援助	18
子どもの食と栄養	19
保育の内容・方法の理解に関する科目	
保育の計画と評価	20
保育内容総論	21
子どもと健康	22
子どもと人間関係	23
子どもと環境	24
子どもと言葉	25
子どもと表現	26
子どもと音楽	27
子どもと造形	28
乳児保育 I	29
乳児保育 II	30
障害児保育	31
社会的養護 II	32
子育て支援	33
子どもの健康と安全	34
保育実習	
保育実習 I・施設	35
保育実習 I・保育所	36
保育実習指導 I・施設	37
保育実習指導 I・保育所	38
総合演習	

保育実践演習 I .....	39
保育実践演習 II .....	40

## 保育に関する科目

---

障害児の心理 .....	41
障害児の病理と保健 .....	42
家庭生活基礎 .....	43
リハビリテーションの理論と技法 .....	44
子どもと感理解 .....	45
子どもと音楽表現 A .....	46
子どもと音楽表現 B .....	47
子どもと造形表現 .....	48
子どもと体育 .....	49
保育内容応用演習 .....	50

## 保育実習

---

保育実習 II .....	51
保育実習 III .....	52
保育実習指導 II .....	53
保育実習指導 III .....	54

## 任意開設科目

---

施設基礎実習 .....	55
保育所基礎実習 .....	56
レクリエーション援助技術 .....	57
障害者スポーツ指導員養成講座 .....	58
障害児（者）の音楽活動の支援 .....	59

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>文章表現実践</b> 選択必修・講義・30時間・2単位	教員名	廣本 勝裕
概要及び目的	多様な題材による総合的な表現と理解の実践を中心に、様々な種類の文章がわかりやすく適切に書けるようになることを目的とします。		
到達目標	○ 国語による的確な理解と効果的な表現の能力を発揮して、保護者や地域の方々と良好な関係を築くとともに、教職員と緊密に連携して園児への適切な教育・保育を行うことができる。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 科目のオリエンテーション 「これまでの国語学習を振り返り、『文章表現実践』の学習内容を把握しよう。」</li> <li>2 表現と理解の基礎（1） 「日本語の成り立ちと特徴を理解し、文章表現の基本を確認しよう。」</li> <li>3 表現と理解の基礎（2） 「漢字・仮名・その他の記号を適切に活用しよう。」</li> <li>4 適切に表現し理解するために（1） 「音声言語と文字言語の特徴を把握するとともに、文章形態とテーマについて検討しよう。」</li> <li>5 適切に表現し理解するために（2） 「構成を工夫し、明確な根拠に基づいて自分の意見を展開しよう。」</li> <li>6 適切に表現し理解するために（3） 「情景や心情の描写を取り入れながら、自分の思いを随筆に表現しよう。」</li> <li>7 表現と理解を広げるために 「語句・語彙（熟語、慣用句、故事成語、同音異義語等）を充実しよう。」</li> <li>8 表現と理解を確かにするために 「表現技法（修辞法）を活用し、状況や情景を的確に伝えよう。」</li> <li>9 表現と理解を高めるために 「推敲や校正の作業を通じて、文章力の向上を図ろう。」</li> <li>10 敬語法の理解と警護表現の実践 「相手や場面を念頭に置いた敬語の基本的な使い方を習得しよう。」</li> <li>11 各種の情報の理解をもとにした表現の展開 「統計や調査結果等の資料を読み取り、分析・検討を行おう。」</li> <li>12 様々な文章形態の表現と理解（1） 「短編小説の様々な手法を参考に、物語を創作しよう。」</li> <li>13 様々な文章形態の表現と理解（2） 「形式を整え、相手の心に響く手紙を書こう。」</li> <li>14 様々な文章形態の表現と理解（3） 「正しくわかりやすく伝えるための告知の在り方を検討しよう。」</li> <li>15 まとめの学習 「『文章表現実践』の学習を振り返り、成果と課題を確認しよう。」</li> </ol>		
評価方法	◎「各授業で取り組んだ課題の提出状況」 (50%) ◎第15時間目の「まとめの学習」の達成状況 (50%)		
テキスト	○授業ごとに配付するプリントを基本テキストとして授業を行います。		
備考	○授業には、「国語辞典（電子辞書）」（※現在持っているものでよい）を持参してください。 ○授業で用いた教材・資料を保存し活用するための「フラットファイル」（厚さ1.5cm程度の標準的なものでよい）を1部用意してください。		

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>日本国憲法</b> 選択必修・講義・30時間・2単位	教員名	大田 晋
概要 及び 目的	<p>我われは一人で生きているわけではない。「社会」という、いろいろな人がそれぞれの考えで生きている集団の中で生きている。そうした社会の一つが国家であり、国民という集団によって成立っている。こうした社会では自分一人の考えや判断でなくみんなの共通のルールのもとで生活していかないと社会（国）は成立たない。この共通のルールこそが「法」である。「法」にはさまざまな種類があるが、その頂点に立つものが「憲法」である。</p> <p>講義では、はじめに「法・法律」全般について学び、次に「日本国憲法」に規定されている国民民主権、基本的人権、平和主義、国家統治機構などについて詳しく学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国民として「法とは何か」を理解し、法、法律の基礎知識を修得する。</li> <li>2. 憲法や法律などによって与えられ、あるいは求められている「自由と責任、権利と義務」を正しく理解する。</li> <li>3. 自分の考えや行動について法的に適切な判断ができ、責任が持てるようになる。</li> </ol>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義のオリエンテーション（講義概要、講義の狙い、講義の受け方など）</li> <li>2. 「法」とはなにか ～ 意味、役割、理解の仕方</li> <li>3. 「法」の分類と体系</li> <li>4. 法律と国民生活の関わり</li> <li>5. 刑法 ～ 基礎知識とさまざまな事件</li> <li>6. 民法 ～ 基礎知識と日常生活の事例</li> <li>7. 憲法 ～ 意味、全体像</li> <li>8. 憲法 ～ 憲法とはどのように作られたか（制定の歴史）。</li> <li>9. 憲法 ～ 国民民主権</li> <li>10. 憲法 ～ 基本的人権（総論）</li> <li>11. 憲法 ～ 基本的人権（各論）</li> <li>12. 憲法 ～ 平和主義（戦争放棄）</li> <li>13. 憲法 ～ 国家統治機構（1）</li> <li>14. 憲法 ～ 国家統治機構（2）</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終講試験（70%）</li> <li>2. ノート作成と復習状況（20%）</li> <li>3. 受講態度・出席状況（10%）</li> </ol>		
テキスト	<p>教科書は使わない。毎回講義プリントを配布する。 『日本国憲法条文集』（童話社）を購入する。 参考書：『医療・福祉を学ぶ人のための法学入門』（法律文化社）</p>		
備考	<p>毎回配布する B5 判の講義レジュメを A4 判大学ノートの左ページに貼り、右ページには講義で聴いたこと、理解したこと、疑問に思ったことなどを書き込む。 自作ノートは復習にも使用し、終講試験での持込みを認める。</p>		

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>情報科学</b> 選択必修・講義・30時間・2単位	教員名	上田 千恵
概要及び目的	<p>児童福祉現場におけるコンピュータ利用は様々であり、増加傾向である。園便り、児童票はもちろん、写真やビデオを取り込んで発表会などで利用するムービーを作成など、コンピュータ利用知識と技術の修得が必要となってきた。そこで、本科目では、ワープロソフトや表計算ソフトの利用を中心に、画像の扱い方なども演習を通して習得する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンをはじめとする情報機器の名称や働き・意味などを理解して、機器を利活用することができる。</li> <li>・パソコンやスマホを利用した情報作成や検索情報の活用などを、インターネット社会を活用することで、別々の機器から同じ情報を共有し活用できることを理解し、自らがそれらを行うことができる。</li> <li>・ワープロや表計算などのアプリケーションソフトを活用し、自らがイメージした形の情報作成や活用を行うことができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パソコンの基本操作、現場での利用について</li> <li>2～3. 情報社会とネットワーク</li> <li>4. 画像・映像の扱いについて</li> <li>5～6. ワープロソフトの活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートや報告書などの作成</li> </ul> </li> <li>7～9. ワープロソフトの活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・園便りの作成</li> </ul> </li> <li>10. 表計算ソフトの利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや住所録などの作成</li> </ul> </li> <li>11. 表計算ソフトの利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件でのデータの絞り込み</li> </ul> </li> <li>12. ワープロソフトでの表計算ソフトのデータ利用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・宛名などの作成（住所録から差込印刷）</li> </ul> </li> <li>13～14. スライド作成ソフトの利用</li> <li>15. まとめ テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題（作品）に対する取組み（30%）</li> <li>2. レポート、授業の確認テスト（35%）</li> <li>3. 授業参加度（出席、受講態度など）（35%）</li> </ol>		
テキスト	<p>教科書：「30時間アカデミック」情報リテラシー Office2019  その他：必要があれば関連資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科		
科目名	<b>外国語 A</b> 選択必修・演習・30時間・1単位	教員名	宮宅 由美子		
概要 及び 目的	園生活のさまざまな場面に対応できる英語表現を修得すると共に、子供と一緒に遊べる英語ゲーム、歌、手遊びができるように演習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の子供や保護者と簡単な会話ができる</li> <li>・園の中での食事、運動、遊びに出てくる身近な英語を覚える</li> <li>・子供がかかりやすい症状、けがを表す英語を覚える</li> <li>・体調不良時の緊急連絡を英語でできる</li> <li>・行事の案内状を英語で作成できる</li> </ul>				
授業内容	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Self – Introduction &amp; Greetings</li> <li>2. The School Year Begins</li> <li>3. Arrival</li> <li>4. Playtime in the Classroom</li> <li>5. In the Sandbox</li> <li>6. In the Playground</li> <li>7. Lunch Time</li> <li>8. Changing Clothes and Story time</li> <li>9. Nap time</li> <li>10. Blowing Bubbles</li> <li>11. A Sick Child</li> <li>12. Preparation for the Sports Day</li> <li>13. The Sports Day</li> <li>14. Going for a Walk</li> <li>15. まとめ、テスト</li> </ol> <p style="text-align: center;">※ 毎時間、英語の歌や手遊びをする</p> </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%; border: none;"> <p>自己紹介とあいさつ 新学期・園の人々・園舎 登園・家族 室内遊び・欠席の連絡・子供によくある症状 外遊び・遊具 園庭・けんか 昼食・献立表 着替え・衣類と持ち物・お話の時間 お昼寝・トイレ 病気・体の名称 緊急の連絡 行事の案内状・電話連絡 運動会・プログラム 散歩・地図の読み方</p> </td> </tr> </table>			<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Self – Introduction &amp; Greetings</li> <li>2. The School Year Begins</li> <li>3. Arrival</li> <li>4. Playtime in the Classroom</li> <li>5. In the Sandbox</li> <li>6. In the Playground</li> <li>7. Lunch Time</li> <li>8. Changing Clothes and Story time</li> <li>9. Nap time</li> <li>10. Blowing Bubbles</li> <li>11. A Sick Child</li> <li>12. Preparation for the Sports Day</li> <li>13. The Sports Day</li> <li>14. Going for a Walk</li> <li>15. まとめ、テスト</li> </ol> <p style="text-align: center;">※ 毎時間、英語の歌や手遊びをする</p>	<p>自己紹介とあいさつ 新学期・園の人々・園舎 登園・家族 室内遊び・欠席の連絡・子供によくある症状 外遊び・遊具 園庭・けんか 昼食・献立表 着替え・衣類と持ち物・お話の時間 お昼寝・トイレ 病気・体の名称 緊急の連絡 行事の案内状・電話連絡 運動会・プログラム 散歩・地図の読み方</p>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Self – Introduction &amp; Greetings</li> <li>2. The School Year Begins</li> <li>3. Arrival</li> <li>4. Playtime in the Classroom</li> <li>5. In the Sandbox</li> <li>6. In the Playground</li> <li>7. Lunch Time</li> <li>8. Changing Clothes and Story time</li> <li>9. Nap time</li> <li>10. Blowing Bubbles</li> <li>11. A Sick Child</li> <li>12. Preparation for the Sports Day</li> <li>13. The Sports Day</li> <li>14. Going for a Walk</li> <li>15. まとめ、テスト</li> </ol> <p style="text-align: center;">※ 毎時間、英語の歌や手遊びをする</p>	<p>自己紹介とあいさつ 新学期・園の人々・園舎 登園・家族 室内遊び・欠席の連絡・子供によくある症状 外遊び・遊具 園庭・けんか 昼食・献立表 着替え・衣類と持ち物・お話の時間 お昼寝・トイレ 病気・体の名称 緊急の連絡 行事の案内状・電話連絡 運動会・プログラム 散歩・地図の読み方</p>				
評価方法	筆記試験（65%）、レポート（10%）、発表（10%）、出席（15%）で評価する				
テキスト	教科書：「新保育の英語」三修社 必要に応じて資料を配布する				
備考					





年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>体育(講義)</b> 必修・講義・15時間・1単位	教員名	葛城 智子
概要 及び 目的	健康や運動についての基礎的理論を理解し、障害を通じて健康的な生活の設計を主体的に実践できる力を養う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を取り巻く様々な健康問題や社会的問題に関心を持つことができる。</li> <li>・自己や他者の健康について考え、配慮した行動がとれる。</li> <li>・幼児の保育者として、基礎的な知識を基に適切な判断と行動を選択することができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における体育教育</li> <li>2. 現代社会と健康</li> <li>3. 運動の生理</li> <li>4. 運動の基礎理論</li> <li>5. 生活と運動</li> <li>6. 運動処方</li> <li>7. 健康な生活の設計</li> <li>8. まとめ・テスト</li> </ol>		
評価方法	<p>筆記試験（80%） 提出物・小テスト（20%）</p>		
テキスト	長谷川 定宣 「健康科学」		
備考			

年次・学期	1 年次・後期	担当科	児童福祉学科																														
科目名	<b>体育(実技)</b> 必修・実技・30 時間・1 単位	教員名	森年 雅子																														
概要 及び 目的	<p>多種のスポーツ種目を通して、技術の修得、体力の維持増進を図る。また、ニュースポーツも体験、理解する。最終的に学修した内容を組み込んだスポーツフェスティバルを学生自ら企画し、実施することで計画性やマネジメント力を身につける。</p>																																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康安全に配慮し、運動に親しむ態度や基本的な技能を習得する。</li> <li>・様々なスポーツを通して、仲間と協働し、それぞれの競技特性を理解していく中で、実践力と計画力を身につける。</li> <li>・自己の体力と向き合い、明るく豊かな生活を送るための資質能力を身につける。</li> </ul>																																
授業内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>授業の進め方、学習評価の方法 施設、用具の使い方を説明する 基礎運動</td> </tr> <tr> <td>2. 体力チェック</td> <td>現時点での自己体力確認</td> </tr> <tr> <td>3. ソフトバレーボール</td> <td>基礎技能の習得</td> </tr> <tr> <td>4. バレーボール</td> <td>ルール説明、ゲーム、審判</td> </tr> <tr> <td>5. 卓球</td> <td>基礎技能</td> </tr> <tr> <td>6. 卓球</td> <td>ルール説明、ゲーム、審判</td> </tr> <tr> <td>7. バドミントン</td> <td>基礎技能の習得</td> </tr> <tr> <td>8. バドミントン</td> <td>ルール説明、ゲーム、審判</td> </tr> <tr> <td>9. 体づくり運動</td> <td>概要とプログラムの構成</td> </tr> <tr> <td>10. 体づくり運動</td> <td>プログラムの実施</td> </tr> <tr> <td>11. ニュースポーツ</td> <td>基礎技能</td> </tr> <tr> <td>12. ニュースポーツ</td> <td>基礎技能</td> </tr> <tr> <td>13. スポーツフェスティバルの計画</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14. スポーツフェスティバルの計画</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. スポーツフェスティバルの実施</td> <td></td> </tr> </table>			1. オリエンテーション	授業の進め方、学習評価の方法 施設、用具の使い方を説明する 基礎運動	2. 体力チェック	現時点での自己体力確認	3. ソフトバレーボール	基礎技能の習得	4. バレーボール	ルール説明、ゲーム、審判	5. 卓球	基礎技能	6. 卓球	ルール説明、ゲーム、審判	7. バドミントン	基礎技能の習得	8. バドミントン	ルール説明、ゲーム、審判	9. 体づくり運動	概要とプログラムの構成	10. 体づくり運動	プログラムの実施	11. ニュースポーツ	基礎技能	12. ニュースポーツ	基礎技能	13. スポーツフェスティバルの計画		14. スポーツフェスティバルの計画		15. スポーツフェスティバルの実施	
1. オリエンテーション	授業の進め方、学習評価の方法 施設、用具の使い方を説明する 基礎運動																																
2. 体力チェック	現時点での自己体力確認																																
3. ソフトバレーボール	基礎技能の習得																																
4. バレーボール	ルール説明、ゲーム、審判																																
5. 卓球	基礎技能																																
6. 卓球	ルール説明、ゲーム、審判																																
7. バドミントン	基礎技能の習得																																
8. バドミントン	ルール説明、ゲーム、審判																																
9. 体づくり運動	概要とプログラムの構成																																
10. 体づくり運動	プログラムの実施																																
11. ニュースポーツ	基礎技能																																
12. ニュースポーツ	基礎技能																																
13. スポーツフェスティバルの計画																																	
14. スポーツフェスティバルの計画																																	
15. スポーツフェスティバルの実施																																	
評価方法	出席と受講態度、課題テストを総合評価する																																
テキスト	特になし 必要に応じてプリントを配布																																
備考	スポーツウェア、屋内、屋外シューズ、ゼッケンの用意																																

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育原理</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	太田 修平 ・ 小合明美
概要 及び 目的	<p>保育原理とは保育に関する基本的な考え方であり、保育実践のために必要な基盤である。日本社会が大きく変動していく中において、保育を実践するためには必要不可欠な学びである。</p> <p>子どもの最善の利益を実現するため、保育実践に必要な基本原理や思想を理解して、保育を取り巻く社会状況や制度などの保育に関する知識を深めていく。</p>		
到達目標	保育実践のために必要な保育に関する基本的な考え方や価値観を身につける。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の理念と概念</li> <li>2. 保育対象としての子ども</li> <li>3. 福祉としての保育</li> <li>4. 就学前教育・保育基準</li> <li>5. 発達過程に応じた保育</li> <li>6. 保育実践の構成原理</li> <li>7. 保育のねらいと内容</li> <li>8. 遊びと環境構成</li> <li>9. 保育実践のPDCA サイクル</li> <li>10. 保育の思想史</li> <li>11. 日本の保育の制度史（戦前）</li> <li>12. 日本の保育の制度史（戦後）</li> <li>13. 保育における地域連携</li> <li>14. 保護者支援における保育士の役割 保育業務の全体像</li> <li>15. まとめと筆記試験</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (90%) 出席状況・受講態度 (10%)		
テキスト	池田隆英編著 なぜからはじまる保育原理 建帛社 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 チャイルド社 ・必要に応じて資料を配布する。		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>教育原理</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	檜原 靖
概要及び目的	厚生労働省が示す、保育士養成校における“教育原理の学習内容”に従い、講義を進める。冒頭、「教育とは何か？」について考察し、その後、幼児教育とは？について思いを巡らせる。保育士として、幼児と関わり、共感的に支援を行う幼児教育の実践のバックグラウンドとなることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて理解する。</li> <li>2 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。</li> <li>3 教育の制度について理解する。</li> <li>4 教育実践のさまざまな取り組みについて理解する</li> <li>5 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。</li> </ol>		
授業内容	<p>単元Ⅰ オリエンテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 なぜ保育士をめざす為に「教育原理」が必要なのか？ 非認知能力の学習から 教育的支援者としての保育士を考える 教育とは？人とは？ ・ ・ 生物の遺伝、生理的早産説（ポルトマン） 教育の発生と果たす役割 ・ ・ ・ 著作「エミール」（ルソー）</li> </ol> <p>単元Ⅱ 人の発達過程の理解</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2 人の発達段階と発達課題 認知能力の発達 ・ ・ ピアジェ 自己意識の発達 ・ ・ エリクソン 対人関係の発達（社会性） ホスピタリズムとアタッチメント（愛情形成論） ・ ・ ボルビニー</li> </ol> <p>単元Ⅲ 教育の意義 目的および子ども家庭福祉等との関わりについて理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 教育の意義、教育の目的</li> <li>4 乳幼児期の教育の特性</li> <li>5 教育と子どもの家庭福祉の関連性</li> <li>6 人間形成と家庭・地域・地域社会等との関連性</li> </ol> <p>単元Ⅳ 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7 諸外国と日本の教育の思想と歴史</li> <li>8 子ども観と教育観の変遷</li> </ol> <p>単元Ⅴ 教育制度について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9 教育制度の基礎、教育法規・教育行政の基礎</li> <li>10 諸外国の教育制度</li> </ol> <p>単元Ⅵ 教育実践の様々な取り組みについて理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>11 教育実践の基礎理論（内容・方法・計画と評価）</li> <li>12 教育実践の多様な取り組み（モンテソーリ理論・シュタイナー教育）</li> </ol> <p>単元Ⅷ 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13 生涯学習社会</li> <li>14 教育と現代の教育課題</li> <li>15 まとめと振り返り</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席点（15%）</li> <li>2. 講義内レポート（15%）</li> <li>3. テスト（70%）</li> </ol>		
テキスト	必要に応じて資料を配布。 マーカー、A4の2穴ファイルを用意しておくこと。		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子ども家庭福祉</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	太田 修平
概要 及び 目的	<p>子ども家庭福祉に関する歴史的な流れや子ども家庭福祉の意義を学び、現代社会における子どもやその保護者が抱える多様な問題に対する考察を深める。そして、一人ひとりの子どもが心身ともに健やかに発達・成長するために必要な支援、子どもにとって大切な存在である保護者を支えるために必要な支援を学ぶ。</p> <p>そして、子どもの最善の利益を実現することができる社会について考えていく。</p>		
到達目標	専門職として必要な子ども家庭福祉に関する価値観や基本的な知識を身につける。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども家庭福祉の理念と概念</li> <li>2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷と諸外国の動向</li> <li>3. 子どもの人権擁護</li> <li>4. 子ども家庭福祉の制度と実施体制</li> <li>5. 子ども家庭福祉の施設と専門職</li> <li>6. 少子化と地域子育て支援</li> <li>7. 母子保健と子どもの健全育成</li> <li>8. 多様な保育のニーズへの対応</li> <li>9. 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止</li> <li>10. 貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への対応</li> <li>11. 社会的養護</li> <li>12. 障害のある子どもへの対応</li> <li>13. 少年非行等への対応</li> <li>14. 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進</li> <li>15. まとめと筆記試験</li> </ol>		
評価方法	筆記試験 (90%) 出席状況・受講態度 (10%)		
テキスト	中央法規出版 新基本保育シリーズ 子どもと家庭福祉 ・必要に応じて資料を配布する。		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>社会福祉</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	太田 修平
概要 及び 目的	<p>私たちの生活にとって社会福祉は重要な存在であり、一人ひとりの権利を主体として捉えて、私たちの生活を支えている。</p> <p>保育士は社会福祉を支えるための重要な専門職であり、社会福祉の価値観を学ぶこと、社会福祉に関する基本的知識を理解すること、私たちの生活を知ることが必要である。それらのことを学ぶことによって、社会福祉を支える専門職としての専門性を養う。</p>		
到達目標	専門職として必要な社会福祉に関する価値観や基本的な知識を身につける。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の理念と歴史の変遷</li> <li>2. 子ども家庭支援と社会福祉</li> <li>3. 社会福祉の制度と法体系</li> <li>4. 社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等</li> <li>5. 社会福祉の専門職</li> <li>6. 社会保障および関連制度の概要</li> <li>7. 相談援助の理論</li> <li>8. 相談援助の意義と機能</li> <li>9. 相談援助の対象と過程</li> <li>10. 相談援助の方法と技術</li> <li>11. 社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ</li> <li>12. 少子高齢化社会における子育て支援</li> <li>13. 共生社会の実現と障害者施策</li> <li>14. 在宅福祉・地域福祉の推進</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>		
評価方法	<p>筆記試験 (90%)</p> <p>出席状況・受講態度 (10%)</p>		
テキスト	<p>中央法規出版 新基本保育シリーズ 社会福祉</p> <p>・必要に応じて資料を配布する。</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子ども家庭支援論</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	花房 香
概要 及び 目的	本講義では、現代社会において多様化する家族の様相を知るとともに、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援のあり方について学習する。家族の意義とその機能、また現代の子育て家庭を取り巻く社会的状況や支援サービスなどを理解し、保育現場で求められる支援のあり方について学ぶ。		
到達目標	現代の家族の有している時代的特徴が子育てにどのような影響をあたえているのかについて、親と子さらに地域社会との関係をダイナミックに理解し、保育実践においてその関係性をどのように生かし得るかを深めることを目標とする。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族とは何か</li> <li>2. 家族の意義</li> <li>3. 家族の機能</li> <li>4. 現代家庭の現状と課題</li> <li>5. 家庭支援のあり方</li> <li>6. 家庭と子育て</li> <li>7. 家庭生活を取り巻く社会的状況</li> <li>8. 現代家庭の人間関係</li> <li>9. 地域社会の変容と家庭支援</li> <li>10. 現代における子育て家庭への支援</li> <li>11. 子育て家庭への支援政策</li> <li>12. 保育からみた子育て家庭への支援</li> <li>13. 子育て家庭支援のための関係機関連携</li> <li>14. 保育現場での家庭支援の現状</li> <li>15. 保育現場での今後の家庭支援のあり方</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポート点</li> <li>2. 試験</li> <li>3. 出席点</li> </ol>		
テキスト	橋本真紀・山縣文治編「よくわかる家庭支援論」ミネルヴァ書房		
備考			



年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>社会的養護 I</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	高才 彰
概要及び目的	<p>社会的養護とは、何らかの事情のため生まれた家庭や親の元で育つことができない児童を国や社会が公的責任で保護し養育する社会システムを指す。社会的養護の充実度がその国の文化のバロメーターともいわれる。近年の「子どもの貧困」や「児童虐待」の顕在化に伴い、社会的養護の役割は重要性を増している。</p> <p>授業では、社会的養護の現代的意義、その歴史と児童の権利の進展、児童福祉法等による制度整備と実施体系、従事する保育士や専門職の業務、社会的養護の現状と課題について理解することを目的とする。</p>		
到達目標	<p>○児童養護施設等の施設の役割や入所児の生活の様子、施設での保育士の仕事について説明できる。</p> <p>○入所している児童に関わるためには、児童の人権を尊重することが援助の前提であることを説明できる。</p> <p>○児童虐待の被害児童などの施設保護の方法や自立支援のプロセスが説明できる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童養護と保育士</li> <li>2. 社会的養護のなりたち（児童福祉法制定以前）</li> <li>3. 社会的養護のなりたち（児童福祉法制定以後）</li> <li>4. 子どもの権利と社会的養護</li> <li>5. 社会的養護の基本的な考え方</li> <li>6. 社会的養護にかかわる法律</li> <li>7. 社会的養護の制度</li> <li>8. 社会的養護の施設</li> <li>9. 施設養護と専門職</li> <li>10. 施設養護における保育士の支援</li> <li>11. ファミリーソーシャルワークと自立支援計画</li> <li>12. 家庭養護の種類と特徴</li> <li>13. 施設の運営</li> <li>14. 社会的養護の課題と児童福祉施設の支援者としての保育士</li> <li>15. まとめ・テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業中の行う小テスト（配点 20 点）</li> <li>② 学期末試験（配点 80 点）</li> </ol> <p>①と②の合計点で成績評価をします。</p>		
テキスト	<p>改訂 保育士をめざす人の社会的養護 I 編集 辰巳 隆・波田埜 英治 ISBN 9784860156121（株式会社みらい）</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育者論</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	溝口 佳代
概要及び目的	<p>保育所・幼稚園で働く保育者の専門性について理解を深める。  社会構造や環境の変化等を背景に、保育者や保育所に求められる役割を知り、保育者としての責務・専門性等を理解する。  自分なりの保育者像をつくりあげ、実践に結びつけようとする能力を培う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者や保育所を取り巻く社会変化を理解できている。</li> <li>・保育者としての責務・専門性が説明できる。</li> <li>・理想とする「保育士像」を持つことができている。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 保育者の役割・職務内容</li> <li>2. 保育者の資格と責務、資質、能力</li> <li>3・4. 保育者の倫理</li> <li>5. 保育の質の向上</li> <li>6. 専門性の向上等キャリア形成の意義</li> <li>7. 養護と教育</li> <li>8.9.10 様々な保育活動</li> <li>11.12 家庭の連携と保護者に対する支援</li> <li>13. 保育における職員間の連携・協働</li> <li>14. 専門職間及び専門機関との連携・協働</li> <li>15. まとめとテスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（95%）</li> <li>2. 受講態度・出席点（5%）</li> </ol>		
テキスト	新 基本保育シリーズ「保育者論」 中央法規、矢藤誠慈郎 他 編		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育の心理学</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	花房 香
概要及び目的	子どもの発達を心理的視点から学ぶことを目的とする。発達理論、知覚、学習、思考の発達、社会的行動の発達など、さまざまな側面から人間の発達について学び、子どもを理解し、適切な保育、教育が行なえるようになることを目指す。		
到達目標	ヒトの発達を心理学的観点により、身体的、知的、情緒的、社会的側面から学び、それらを幼児教育および保育実践に生かす能力を獲得する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育と心理学の関連</li> <li>2. 発達心理学</li> <li>3. 身体の発達</li> <li>4. 知的な発達</li> <li>5. 情緒の発達</li> <li>6. 人格の発達</li> <li>7. 対人関係の心理学と保育</li> <li>8. ことばの発達</li> <li>9. ことばと対人関係</li> <li>10. 保育とことば</li> <li>11. 数についての発達と保育</li> <li>12. 保育環境と保育</li> <li>13. 遊びの発達</li> <li>14. 遊びと保育</li> <li>15. 保育施設での関わり</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験</li> <li>2. 出席点</li> </ol>		
テキスト	無藤隆 他編 新プリマーズ「発達心理学」ミネルヴァ書房		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子ども家庭支援の心理学</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	樋田 佳菜子
概要 及び 目的	<p>生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</p> <p>家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</p> <p>子育て家庭をめぐる現代社会の状況と課題について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識をもち、子どもの初期経験の重要性、発達課題等について理解できる。</li> <li>・家族/家庭の意義や機能を理解できる。</li> <li>・家族/家庭について発達心理学的視点及び、社会学的視点から理解できる。</li> <li>・子育て家庭をめぐる現代社会の状況と課題について理解できる。</li> <li>・子どもの精神保健とその課題について理解できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児期の発達</li> <li>2. 幼児期の発達</li> <li>3. 学童期の発達</li> <li>4. 青年期の発達</li> <li>5. 成人期・中年期の発達</li> <li>6. 高齢期の発達</li> <li>7. 家族・家庭の意義と機能</li> <li>8. 家族関係・親子関係の理解</li> <li>9. 子育ての経験と親としての育ち</li> <li>10. 子育てを取り巻く社会的状況</li> <li>11. ライフコースと仕事・子育て</li> <li>12. 多様な家庭とその理解</li> <li>13. 特別な配慮を要する過程</li> <li>14. 子どもの生活・生育環境とその影響</li> <li>15. 子どものこころの健康に関わる問題</li> </ol>		
評価方法	筆記試験（100%）		
テキスト	「子ども家庭支援の心理学」 中央法規出版 2019		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもの保健</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	山口 玲子
概要 及び 目的	子供の健康に関する保健活動や子供の発育発達について理解し、子どもの健康観察や異常の早期発見、感染症予防、疾病時の対応など保育現場における保健活動に必要な知識を習得する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の健康と保健の意義が理解できる</li> <li>・子どもの身体的発育と発達が理解できる</li> <li>・子どもの心身の健康状態とその把握ができる</li> <li>・子どもの疾病の予防、及び適切な対応が理解できる</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的</li> <li>2. 健康の概念と健康指標</li> <li>3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題</li> <li>4. 地域における保健活動と子ども虐待防止</li> <li>5. 身体発育及び運動機能の発達と保健 ・ 小テスト①</li> <li>6. 生理機能の発達と保健</li> <li>7. 健康状態の観察</li> <li>8. 発育・発達の把握と健康診断</li> <li>9. 保護者との情報共有 ・ 小テスト②</li> <li>10. 主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気</li> <li>11. 主な疾病の特徴② 循環器、呼吸器、消化器の病気</li> <li>12. 主な疾病の特徴③ アレルギー、免疫の病気、腎泌尿器、内分泌の病気</li> <li>13. 主な疾病の特徴④ 脳の病気、その他の疾患 ・ 小テスト③</li> <li>14. 主な疾病の特徴⑤ 感染症</li> <li>15. 子どもの疾病と予防と適切な対応 ・ 最終テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験（50%）、小テスト（30%）</li> <li>2. 出席状況（20%）</li> </ol>		
テキスト	<p>子どもの保健 中央法規出版 その他、必要に応じて資料配布する</p>		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもの理解と援助</b> 必修・演習・30時間・1単位	教員名	鈴木 晶子
概要 及び 目的	<p>一人一人の子どもの気持ちを理解し、必要な援助を行うことができる保育士を目指し、自己理解・他者理解、コミュニケーション、対人援助理論などについて学ぶ。</p> <p>また、ストレスの仕組みを理解し、自分自身のメンタルヘルスを維持するとともに、ストレスを抱えた子どもの理解や援助についても理解を深める。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の性格傾向や考え方のくせや偏りに気づくことができる。</li> <li>・様々な対人援助理論を理解することができる。</li> <li>・ストレスのしくみや反応を理解し、メンタルヘルスに努めることができる。</li> <li>・児童虐待が与える子どもへの影響を理解することができる。</li> <li>・架け橋期にある子どもや特別なニーズがある子どもの支援について理解できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己理解について・演習</li> <li>2. 他者理解について・演習</li> <li>3. BPSモデル、集団の影響</li> <li>4. 言語的コミュニケーション・敬語</li> <li>5. 非言語的コミュニケーション</li> <li>6. アサーション、ロジャーズの3原則、</li> <li>7. アクスラインの8原則、傾聴演習</li> <li>8. ストレスのしくみ</li> <li>9. 防衛機制</li> <li>10. 子どものストレス反応と対応</li> <li>11. 児童虐待</li> <li>12. 発達障害</li> <li>13. 特別なニーズのある子どもへの支援</li> <li>14. 発達の連続性と就学支援</li> <li>15. 終講テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験 (80%)</li> <li>2. レポート (10%)</li> <li>3. 受講態度 (10%)</li> </ol>		
テキスト	なし プリントを配布する。		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもの食と栄養</b> 必修・演習・60時間・2単位	教員名	溝口 佳代
概要及び目的	<p>子どもの食生活の状況について概説する。 乳幼児期における発育・発達に応じた食事を、調理実習を通じて理解するとともに、食育の意義と内容について理解を深め、保育現場などで実践することができる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活の意義や栄養に関する基本的知識を説明でき、自身の生活を見直すことができる。</li> <li>・各年齢段階におけるこどもの健康・成長と食生活の関連を理解している。</li> <li>・特別な配慮を要する子どもに対しての配慮が理解できている。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康と食生活の意義 栄養の基本</li> <li>2. 栄養素の種類と働き</li> <li>3. 食生活の目標 献立作成・調理の基本</li> <li>4. 乳児期の授乳の意義と食生活（1）</li> <li>5. 乳児期の授乳の意義と食生活（2）</li> <li>6. 調理準備・オリエンテーション</li> <li>7. 8 調理実習（1）</li> <li>9. 園の給食・食育だより</li> <li>10. 食育における養護と教育の一体性</li> <li>11. 乳児期の離乳の意義と食生活</li> <li>12・13. 調理実習（2）（3）</li> <li>14. 幼児期の心身の発達と食生活</li> <li>15 中間テスト</li> <li>16. 17 調理実習（3）</li> <li>18・19 調理実習（4）</li> <li>20.. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養</li> <li>21. グループワーク（実習計画）</li> <li>22.23. 調理実習（5）</li> <li>24 特別な配慮を要する子どもへの食事と栄養</li> <li>25・26 調理実習（6）</li> <li>27・28・29 調理実習（7）</li> <li>30. まとめとテスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習・授業態度（20%）</li> <li>2. 試験（75%）</li> <li>3. 出席点（5%）</li> </ol>		
テキスト	<p>新 基本保育シリーズ「子どもの食と栄養」 中央法規、堤ちはる 他 編 その他：その都度、関連資料を配布</p>		
備考	<p>調理実習時には、指示通りの服装等を準備すること</p>		

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育の計画と評価</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	西原 嘉子
概要 及び 目的	<p>保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。          全体的な計画と指導計画の作成についての意義と方法を理解する。          子どもの理解に基づく保育の過程（計画、実践、記録、省察、評価、改善）について、          全体計画を捉え理解する。          実習時に作成する指導案とその記入について学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育施設及び保育の計画、保育者としての役割について理解できる。</li> <li>・ 保育実習に向けて、指導案や実習日誌の書き方を理解し作成できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育施設</li> <li>2. 幼稚園教育と保育所保育</li> <li>3. 保育の計画と評価の基本</li> <li>4. 子どもの発達過程と指導計画</li> <li>5. 保育所における保育の計画</li> <li>6. 保育の計画の作成と展開</li> <li>7. 保育所における保育の評価</li> <li>8. 実習につなげるために</li> <li>9. 指導案作成と記入にあたって</li> <li>10. 指導案①作成</li> <li>11. 実習日誌と記入にあたって</li> <li>12. 実習日誌の作成</li> <li>13. 指導案②作成</li> <li>14. 指導案③作成</li> <li>15. テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題（25%）</li> <li>2. 試験（60%）</li> <li>3. 出席及び受講態度（15%）で評価する</li> </ol>		
テキスト	<p>「保育の計画と評価を学ぶ ― 保育の基盤の理解と実習への活用 ―」          加藤敏子・岡田耕一 編著          菊池一晴・都留明子・富永由佳・富山大士 著（萌文書林）</p> <p>参考書：「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」          （チャイルド社）</p>		
備考			



年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育内容総論</b> 必修・演習・30時間・1単位	教員名	小合 明美
概要及び目的	<p>保育内容や歴史の変遷等、保育の全体的構造、また、子どもの主体性を育むことを基本としながら、保育が養護と教育の一体的な展開であることを学ぶ。そして、環境構成や援助を行う実践力、子どもとの総合的な関わりができるようにする。</p> <p>保育所、幼稚園、認定こども園の保育の基本と、保育内容の理解とともに保育の専門性、今後の保育内容の課題を学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の発達や学びの過程を理解し、遊びを中心とした保育内容や総合的な指導のあり方を身につける。</li> <li>・様々なニーズや保育の具体的な展開を理解し、専門職として子どもの育ちをサポートしていく保育者をイメージすることができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容とは</li> <li>2. 保育内容の歴史の変遷と保育生活の全体的構造</li> <li>3. 発達のとらえ方と保育内容</li> <li>4. 保育内容における遊びの意味</li> <li>5. 保育の一日と内容</li> <li>6. 多様な保育・子育て支援の展開</li> <li>7. 乳児保育</li> <li>8. 長時間の保育</li> <li>9. 病児・病後児保育・特別な支援を必要とする子どもの保育</li> <li>10. 多文化共生の保育</li> <li>11. 保育所・幼稚園・認定こども園における小学校との連携</li> <li>12. 保育内容と子ども理解</li> <li>13. 保育内容の今日的課題と保育者の専門性</li> <li>14. 今後の保育内容の課題と展望</li> <li>15. まとめとテスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（85%）</li> <li>2. 課題（5%）</li> <li>3. 受講態度及び出席点（10%）</li> </ol>		
テキスト	<p>教科書：咲間まり子 コンパス保育内容総論（建帛社） 「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型こども園 教育・保育要領」 （チャイルド本社）</p>		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと健康</b> 必修・演習・30時間・1単位	教員名	野村 恵理
概要 及び 目的	<p>領域「健康」の指導に関する、乳幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に付ける。</p> <p>1) 乳幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する。  2) 乳幼児の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。  3) 安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。  4) 乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる</p>		
到達目標	<p>1) 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。  2) 乳幼児の体の発達の特徴と基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。  3) 乳幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考えを理解している。  乳児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。  4) 乳幼児期の運動発達の特徴を説明できる。  乳幼児期において多様な動きを獲得することの意義を理解している。  日常生活における乳幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。</p>		
授業内容	<p>1. オリエンテーション  2. 保育所保育指針と健康  3. 健康について考える  4. 乳児にとっての健康とは  5～7. 保育における子どもの健康  8～10. グループ発表  11. こころの発達と健康  12. パーソナリティーの形成  13. 社会性の発達と健康  14. 健康な生活リズムの理解と形成  15. まとめと試験</p>		
評価方法	<p>1. 試験 1 + 2 (70%)  2. 出席点  3. レポート 3 + 4 (30%)  4. グループ活動と発表</p>		
テキスト	<p>教科書：春日 晃章「新時代の保育双書 保育内容 健康」みらい  その他必要に応じて資料プリントを配布</p>		
備考			

年次・学期	Ⅰ年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと人間関係</b> 必修・演習・30時間・Ⅰ単位	教員名	鈴木 晶子・室崎 美佐子
概要 及び 目的	<p>現代社会の状況をふまえ、子どもが人との関わりの中で成長し自立していく過程を理解し、その過程における保育者としての役割やかかわり方について講義と演習を通して学ぶ。</p> <p>そのために、各発達期の子どもの発達や特徴を理解し、それぞれの時期の保育者としての必要な援助の方法を学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢ごとの発達特徴や人との関わり方について理解できる。</li> <li>・愛着の機能や発達について理解できる。</li> <li>・子どもの道徳観の発達について理解できる。</li> <li>・子ども同士のいざこざについて、発達に応じた対応の違いを理解し、実践することができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 領域「人間関係」とは</li> <li>2. 子どもを取り巻く社会の状況</li> <li>3. エリクソンの発達理論</li> <li>4. 0～2歳児の人との関わりと保育者の援助</li> <li>5. 3～5歳児の人との関わりと保育者の援助</li> <li>6. 愛着理論</li> <li>7. 遊びと仲間</li> <li>8. 子どもの自立</li> <li>9. 思いやりと道徳性、規範意識</li> <li>10. 子どもを取り巻く人間関係</li> <li>11～14. 演習（時期は未定）</li> <li>15. テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（80%）</li> <li>2. レポート（10%）</li> <li>3. 受講態度（10%）</li> </ol>		
テキスト			
備考	塚本美知子「人間関係」萌文書林		

年次・学期	Ⅰ年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと環境</b> 必修・演習・30時間・Ⅰ単位	教員名	小合 明美
概要及び目的	乳幼児期の保育にとって環境が重要な要素になっていることを理解する。さらに子どもの健全な発達には、どのような環境を準備設定するか、また、人的環境・物的環境を中心にその環境への子どもの関わり方はいかにあるべきかを実践も踏まえながら「環境とかかわる力」を育てる保育内容について学習する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児を取り巻く環境(人的・物的・社会・自然等)と、それらの重要性について、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示される「環境」領域のねらいを踏まえて理解する。</li> <li>・野菜栽培の経験をとおして、身近な環境に関わる自然や社会事象などに関心をもつとともに、保育者としての感性を豊かにする。</li> <li>・乳幼児期の思考・概念の発達を理解し、保育者の配所や援助・環境構成のあり方について考えることができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身を取り巻く環境、園の環境</li> <li>2. 領域「環境」について</li> <li>3. 子どもの生活と環境との関わり</li> <li>4. 園の環境構成</li> <li>5. 物との関わりと遊び</li> <li>6. 自然環境との関わり</li> <li>7. 夏野菜とサツマイモの苗の植えつけ</li> <li>8. 数量と図形との関わり</li> <li>9. 幼児と文字、標識との関わり</li> <li>10. 科学との出会いと環境</li> <li>11. 保育と行事</li> <li>12. 子どもを取り巻く社会環境</li> <li>13. 障害児の保育環境</li> <li>14. 環境教育、子どもを取り巻く情報メディア</li> <li>15. まとめとテスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題 (10%)</li> <li>2. 試験 (80%)</li> <li>3. 授業の取組及び出席点 (10%)</li> </ol>		
テキスト	<p>教科書：[新版] 保育内容 環境 無藤隆・中坪史典・後藤範子 編著 大学図書出版  参考書：「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型こども園 教育・保育要領」  (チャイルド本社)</p> <p>「保育学用語辞典」秋田喜代美 監修 (中央法規)</p>		
備考			

年次・学期	Ⅰ年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと言葉</b> 必修・演習・30時間・Ⅰ単位	教員名	西原 嘉子
概要 及び 目的	<p>領域「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者として基本的な知識や言葉の役割などを学ぶ。 また、乳幼児期の言葉の発達過程を理解し、自ら主体的に話したい、聞きたいという意欲や態度を育むための保育者としての援助、指導を学ぶ。</p> <p>保育実践に活かせる力をつけるため、児童文化財について具体的に学び、グループワーク、模擬保育を取り入れ、保育者としての技術を養う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の言葉の発達過程や言葉の役割について理解する</li> <li>・保育所における児童文化財を体験し、保育技術を身につける</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容「言葉」の意義</li> <li>2. 領域「言葉」の「ねらい」及び「内容」</li> <li>3. 子どもの言葉の発達</li> <li>4. 子どもの言葉と環境</li> <li>5. 保育者の指導・支援</li> <li>6. 言葉での関わりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援</li> <li>7. 保育者の言葉</li> <li>8. 「言葉」の指導計画 発展事例 言葉と国語教育</li> <li>9. 児童文化財（1）</li> <li>10.     〃     （2）</li> <li>11.     〃     （3）</li> <li>12. 児童文化財の実践と発表</li> <li>13.     〃</li> <li>14.     〃</li> <li>15. テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題（15%）</li> <li>2. 試験（70%）</li> <li>3. 出席及び受講態度（15%）</li> </ol>		
テキスト	<p>教科書：駒井美智子「保育者をめざす人の保育内容 言葉」（みらい） 参考書：「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型こども園 教育・保育要領」 （チャイルド本社）</p>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと表現</b> 必修・演習・30時間・1単位	教員名	大下 諭史 他
概要及び目的	乳幼児の音楽的発達をふまえて、見たり、聞いたり、感じたことを表現する方法について理解を深め、歌唱・器楽・鑑賞・動きのリズムなどの指導に必要な基礎的知識と表現能力を発達させるための関わり方を学習する。		
到達目標	発表行事に向けてのプログラム内容作成の過程を経験し、自分が表現できることを、本番で発表することができる。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発表行事に向けて アンケート等</li> <li>2. 内容案決め、リーダー・ポスター作成担当等</li> <li>3. 内容決め 準備・練習について</li> <li>4. プログラム決め 各グループ準備・練習</li> <li>5～8. 各グループ準備・練習</li> <li>9～13. 各グループ準備・練習、全体準備・練習</li> <li>14. 発表行事準備・リハーサル</li> <li>15. 発表</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席点 (10%)</li> <li>2. 実技内容 (10%)</li> <li>3. 受講態度、取り組み意欲 (80%)</li> </ol>		
テキスト	必要に応じてプリント配布		
備考			

年次・学期	1 年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと音楽</b> 必修・演習・60 時間・2 単位	教員名	大下 諭史
概要及び目的	音楽の基礎知識を身につけ、楽譜を読み、理解力を伸ばすとともに、音楽的表現力、個性を生かした音楽活動ができるようにする。楽器演奏や歌唱を通して、コードネームの習得、単純な伴奏法を身につけ、保育者としての音楽能力を習得する。更には、実践展開のための音楽技能を培い、基本となる音楽の諸要素（リズム、ハーモニー、メロディー、フレーズ等）を体得する。		
到達目標	前期：楽譜に使用される用語・記号の意味を理解し、楽器演奏に繋げることができる。 後期：コードネームを理解し、簡単な和音伴奏で演奏ができる。		
授業内容	1 ～ 3. 基礎知識とト音記号・ヘ音記号 4 ～ 5. 譜表 6. 音符の長さとその種類 7. 休符の長さとその種類 8. リズムとリズム譜 9. 臨時記号とその種類 10 ～ 11. テンポ用語 12 ～ 13. 強弱の変化・曲想・奏法についての用語と記号 14. 反復記号・まとめ 15. 試験  16 ～ 18. 音程 19 ～ 20. 音階 21 ～ 22. 和音・コードネーム 23 ～ 24. 合奏・器楽演奏等（時期未定） 25 ～ 28. 音楽鑑賞（時期未定） 28. 和音・移調 29. まとめ 30. 試験		
評価方法	1. 筆記試験、実技演習 (60%) 2. 出席点 (5%) 3. 受講態度 (5%) 4. その他 テキスト・課題プリント・感想提出等 (30%)		
テキスト	教科書：小林美実監修、井戸和秀編『子どものうた 100』チャイルド社 橋本晃一編 ピアノ弾けるよ！楽典ワーク ドレミ楽譜出版社 その他：必要に応じてプリントを配布、VTR 使用		
備考			

年次・学期	1年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと造形</b> 必修・演習・60時間・2単位	教員名	檜原 靖・西原嘉子
概要及び目的	<p>基礎的な造形活動を体験し、その後の実際の保育のための造形活動に資する知識・技能を養う。          実技・演習等を通して、造形の基礎技能の取得と、素材・用具の取り扱い方についての習熟を図り、保育士に必要な造形表現についての理解・教養を深める。</p>		
到達目標	<p>(檜原) 基礎的な造形力を習得し、各課題内容を理解して、各自のオリジナルなアイデアで作品を制作する事ができる。          (西原) 保育所における製作活動を理解し、実践できる</p>		
授業内容	<p><b>(担当：檜原)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鉛筆・カッターナイフ・ハサミの使用 (各課題(3種類)を実施)</li> <li>2. 鉛筆・カッターナイフ・ハサミの使用 (各課題(3種類)を実施)・・・まとめと合評会</li> <li>3. コラージュ (作品集の表紙・裏表紙制作)</li> <li>4. コラージュ (作品集の表紙・裏表紙制作)・・・まとめと合評会</li> <li>5. 鉛筆によるイラストレーション</li> <li>6. 鉛筆によるイラストレーション・・・まとめと合評会</li> <li>7. 色彩の理論 (テキストとプリントのよる学習)</li> <li>8. 土粘土(テラコッタ)体験(顔の制作)</li> <li>9. 土粘土(テラコッタ)体験(香炉の制作)・・・まとめと合評会</li> <li>10. ポップアップカードの制作</li> <li>11. ポップアップカードの制作・・・まとめと合評会</li> <li>12. 木材造形体験 (ペンダントの制作)</li> <li>13. 木材造形体験 (ペンダントの制作)・・・まとめと合評会</li> <li>14. テキスタイル織(平織)体験(コースターの制作)</li> <li>15. テキスタイル織(平織)体験(コースターの制作)・・・まとめと合評会</li> </ol> <p><b>(担当：西原)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16.17. クレヨン・パスの使い方</li> <li>18.19. 絵の具の使い方</li> <li>20. はさみの使い方</li> <li>21. のりの使い方</li> <li>22. テープの使い方</li> <li>23. カッターとボンドの使い方</li> <li>24. ペンの使い方</li> <li>25～27. 色々な用具と材料(手作り玩具)</li> <li>28～30. 保育教材の製作と発表</li> </ol>		
評価方法	<p>(檜原) 1. 出席点(10%) 2. 作品点(作品とまとめ)(40%)          (西原) 1. 出席点及び受講態度(15%) 2. 作品点(35%)</p>		
テキスト	<p>必要プリント、課題用紙を配布          (西原) 幼児期の終わりまでに身に付けたい造形道具の知識と技能が楽しくしぜんに育つ本          (著 竹井 史)</p>		
備考	<p>前時に次回必要用具・道具を連絡します。予告準備物を忘れた場合、出席点より減点対象とします。</p>		



年次・学期	1 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>乳児保育 I</b> 必修・講義・30 時間・2 単位	教員名	室崎 美佐子
概要及び目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の意義、目的及び役割について学ぶ。</li> <li>2. 保育所や多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。</li> <li>3. 3 歳未満児の保育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する。</li> <li>4. 職員間の連携・協働及び保護者や関係機関との連携について理解する。</li> </ol>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性を尊重する養護と教育を一体的に展開する保育内容について理解する。</li> <li>・乳児保育の専門性について具体的に理解していく。(職員間の連携・協働・同僚性等)。</li> <li>・3 歳未満児の発達を理解し、丁寧で応答的な関わりについて理解を深めることができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (本授業の進め方や授業方法などについて説明などを行う)</li> <li>2. 乳児保育の目的と役割 (乳児保育の目的と役割、実施体制などについて)</li> <li>3. 乳児保育の基本 (乳児保育の背景や歴史的変遷、子育て支援、地域や家庭とのつながりなどについて)</li> <li>4. 0・1・2 歳児の発達 (0・1・2 歳児の子どもの主な発達について)</li> <li>5. 乳児 (0 歳児) の保育内容 (乳児 (0 歳児) の保育内容について)</li> <li>6. 1 歳以上 3 歳未満児の保育内容 (1 歳以上 3 歳未満児の保育内容について)</li> <li>7. 乳児の生活と遊びの基本的事項 (乳児の生活と遊び、健康や安全、防災対策について)</li> <li>8. 乳児の生活の基本 (乳児の生活の基本 (食事・睡眠と休息・排泄・着脱・清潔)</li> <li>9. 乳児の遊び (各年齢ごとの乳児の遊びや適したおもちゃについて)</li> <li>10. 乳児保育の環境構成 (乳児の年齢ごとの保育室での環境構成について)</li> <li>11. 乳児保育における全体的な計画 (乳児保育での全体的な計画と指導計画について)</li> <li>12. 乳児保育における子育て支援 (乳児保育での子育て支援や保護者への対応、支援の実際について)</li> <li>13. 乳児保育における連携 (乳児保育での職員・家族・地域での連携について)</li> <li>14. 一人一人を健やかに育てていくために (乳児保育の重要性、保育者としての専門性と資質向上について)</li> <li>15. 本授業でのまとめ (本授業で学んだことや学生自身の学びの確認)</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験 (80%)</li> <li>2. レポート (20%)</li> </ol>		
テキスト	小山朝子編著・亀崎美佐子・善本眞弓『講義で学ぶ 乳児保育』わかば社、2019		
備考			

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>乳児保育Ⅱ</b> 必修・講義・30時間・2単位	教員名	室崎 美佐子
概要及び目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3歳未満児の保育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的な考えを理解する。</li> <li>2. 養護と教育の一体性を踏まえ、乳児保育における計画の作成について理解するとともに、生活や遊び保育の方法及び環境について学ぶ。</li> <li>3. 乳児保育における配慮の実際について学ぶ。</li> <li>4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</li> </ol>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳未満児の保育内容について理解し基本的な保育技術を身につけることができる。</li> <li>・関わりや配慮や援助について演習を通して理解する。</li> <li>・子どもの育ちについて、保育の計画を基に保育士の連携や協働の大切さを理解する。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス（本授業の進め方や授業方法などについて説明などを行う）</li> <li>2. 乳児保育の意義（養護と教育が一体となって行われる乳児保育の意義について）</li> <li>3. 0～3歳までの発育・発達（0～3歳の各年齢の発達について）</li> <li>4. 食事の援助と環境（調乳や冷凍母乳の解凍、授乳、離乳食などの保育者の具体的な援助について）</li> <li>5. 排泄の援助と環境（おむつ交換からパンツへの移行、排泄への保育者の具体的な援助について）</li> <li>6. 睡眠・休息の援助と環境（子どもの睡眠や休息時の保育者の援助や保育環境などについて）</li> <li>7. 着脱に関する援助と環境（子どもの衣服や衣服以外（靴下や靴、帽子など）の着脱への保育者の援助について）</li> <li>8. 清潔に関する援助と環境（沐浴や清拭、手や顔を拭く洗う、鼻をかむ、うがい、歯みがきなどの援助について）</li> <li>9. 乳児保育における健康と安全（乳児保育での安全対策や事故防止、アレルギーへの対応、園外での遊びの対応、虐待、防災対策の実際について）</li> <li>10. 乳児（0歳児）の保育内容と遊び（乳児（0歳児）の保育内容、保育者の援助および乳児の遊びについて）</li> <li>11. 1歳以上3歳未満児の保育内容（1歳以上3歳未満児の保育内容、保育者の援助、環境の変化や移行について）</li> <li>12. 1歳以上3歳未満児の遊び（1歳児および2歳児の遊びとおもちゃや遊具について）</li> <li>13. 乳児保育における計画と評価（乳児保育における全体的な計画、長期指導計画、短期指導計画および評価について）</li> <li>14. 乳児保育を支える連携（乳児保育における職員間の連携、家庭との連携、地域との連携について）</li> <li>15. 本授業でのまとめ（本授業で学んだことや学生自身の学びの確認）</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（80%）</li> <li>2. 課題・演習（各10%）</li> </ol>		
テキスト	<p>小山朝子編著・亀崎美佐子・善本真弓『講義で学ぶ 乳児保育』わかば社、2020</p>		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>障害児保育</b> 必修・演習・60時間・2単位	教員名	赤木 剛
概要及び目的	<p>文部科学省の調査によれば、義務教育段階において特別な支援を受けている児童・生徒が約5%、普通学級内にも学習面や行動面で著しい困難を示す子どもが約9%在籍しているといわれている。さらに、貧困や虐待など、子どもの力だけでは変容不可な環境の中で、諸々の困難を抱えた子どもたちもいる。これらの子どもたちの理解・支援をすることなく、子ども支援の現場は成立しない。</p> <p>本講義では、障害児をはじめ、「環境との相互作用」による困難さを抱えた様々な子どもたちについて、支援のあり方を学んでいく。</p>		
到達目標	<p>○支援が必要な子どもを支援するための、諸制度・理念・法律等を知ることができる。</p> <p>○支援が必要な子どもの状態像を把握し、支援をする技法を習得できる。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害や支援が必要な状態を「環境との相互作用」の観点で捉える</li> <li>2. 障害児や支援が必要な子どもを支える諸概念 (ノーマライゼーション、インクルージョンなど)</li> <li>3. 障害児や支援が必要な子どもを支える福祉制度の変遷</li> <li>4. 障害児や支援が必要な子どもを支える法律 (障害者総合支援法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法など)</li> <li>5～6. 「発達の視点」について</li> <li>7～8. アセスメントについて</li> <li>9. 支援が必要な子どもたちを知る① (発達障害)</li> <li>10. 支援が必要な子どもたちを知る② (知的障害)</li> <li>11. 支援が必要な子どもたちを知る③ (身体障害)</li> <li>12. 支援が必要な子どもたちを知る④ (場面緘黙、てんかん、チック、吃音 など)</li> <li>13. 支援が必要な子どもたちを知る⑤ (被虐待児、貧困、外国につながる子ども など)</li> <li>14. 前期のまとめ</li> <li>15. 支援方法① (応用行動分析)</li> <li>16. 支援方法② (SST、PECS、TEACCHプログラム など)</li> <li>17. 支援計画の立案</li> <li>18. 発達を促す生活やあそび環境</li> <li>19. 職員間の協力関係 (事例検討の進め方 など)</li> <li>20. 家庭との連携</li> <li>21. 関係機関との連携 (児童発達支援、児童相談所、医療機関 など)</li> <li>22. 支援が必要な子どもたち早期発見と支援</li> <li>23. 就学に向けて</li> <li>24. ライフステージに沿った支援</li> <li>25. 障害へのまなざしと、支援者の心</li> <li>26～29. 具体的な支援事例を検討する</li> <li>30. 終講試験</li> </ol>		
評価方法	<p>終講試験で評価 (100点満点)。 ただし、提出物の提出状況により、終講試験に加点をする場合がある。</p>		
テキスト	<p>「実践に生かす 障害児保育・特別支援教育」 前田泰弘 編著 萌文書林</p>		
備考			

年次・学期	Ⅰ年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>社会的養護Ⅱ</b> 必修・演習・30時間・Ⅰ単位	教員名	石原 正巳
概要及び目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護の歴史及びその理念・基本について学習する。</li> <li>2. 施設養護及び家庭養護の実際について学習する。特に岡山県中央児童相談所等と連携し、里親、養護系施設職員の講話等を通して一層の理解を深める。</li> <li>3. 社会的養護に関わる支援・技術等について、その基本を具体的に学習する。</li> <li>4. 社会的養護における被虐待児童のケアと家庭支援について、その基本を学習する。</li> <li>5. 社会的養護における支援計画、記録、評価の実際について、その基本を学習する。</li> </ol>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について説明できる</li> <li>・社会的養護にかかわる相談援助の方法・技術の基礎について理解できる</li> <li>・社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解できる</li> <li>・人との関わりに必要な他者理解や問題解決方法を理解できる</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護Ⅱを学ぶあなたへーオリエンテーション</li> <li>2. 社会的養護の基本基礎理解ー社会的養護の理念と体系</li> <li>3. 社会的養護における支援内容ー施設養護の展開①アドミッションケア</li> <li>4. 社会的養護における支援内容ー施設養護の展開②インケア</li> <li>5. 社会的養護における支援内容ー施設養護の展開③リビングケア～アフターケア</li> <li>6. 自立支援計画ー自立支援計画とは 自立支援計画づくり</li> <li>7. 記録と評価ー記録ー実践記録と子どもの理解</li> <li>8. 社会的養護に関わる専門的技術ー職員（保育士）の役割と倫理</li> <li>9. 事例 社会的養護の実際①ー乳児院、母子生活支援施設の事例</li> <li>10. 事例 社会的養護の実際②ー児童養護施設、地域小規模児童養護施設の事例</li> <li>11. 事例 社会的養護の実際③ー児童心理治療施設、児童自立支援施設の事例</li> <li>12. 事例 社会的養護の実際④ー岡山県中央児童相談所、里親による里親出前講座</li> <li>13. 社会的養護の課題と展望ー社会的養護に関する政策動向</li> <li>14. 対応困難事例に関する質疑</li> <li>15. 振り返りとまとめ、期末試験</li> </ol>		
評価方法	期末試験（80%）、リアクションペーパーおよび授業への興味、理解（20%）で評価する。		
テキスト	みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護Ⅱ 著者代表 喜多 一憲 株式会社 みらい		
備考	里親に関する学びについては、岡山県中央児童相談所等と連携し、「里親出前講座」を開催する。子どもと家庭の福祉の第一線で職務に従事している児童相談所職員、里親及び養護系施設職員等の講話、体験談等を聞くことにより、社会的養護の今日的課題について一層の理解を深める。		

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子育て支援</b> 必修・演習・30時間・1単位	教員名	室崎 美佐子
概要及び目的	<p>1. 保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供・行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に学ぶ。</p> <p>2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に応じた支援の内容と方法及び技術を事例等を通して具体的に理解する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士の専門性について理解するとともに、具体的に事例を通して支援方法を考えることができる。</li> <li>・保育現場における子育て支援について知識を深め、演習課題を設定し多角的な視点を持ち他者と共有できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの保育とともに行う保護者の支援</li> <li>2. 保護者との相互理解と信頼関係の形成</li> <li>3. 支援のニーズへの気付きと多面的な理解</li> <li>4. 子育て支援におけるプロセスの意義</li> <li>5. 支援の計画と環境の構成</li> <li>6. 支援の実践</li> <li>7. 職員間の連携</li> <li>8. 社会資源の活用</li> <li>9. 保育所における支援</li> <li>10. 地域の子育て家庭に対する支援</li> <li>11. 障害のある子どもおよびその家庭に対する支援</li> <li>12. 特別な配慮を必要とする子どもおよびその家庭に対する支援</li> <li>13. 虐待予防と対応</li> <li>14. 復習</li> <li>15. まとめ・テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験（80%）</li> <li>2. レポート・演習（20%）</li> </ol>		
テキスト	<p>必要に応じて資料を配布 中央法規 新基本保育シリーズ 子育て支援 公益財団法人 児童育成協会監修</p>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもの健康と安全</b> 必修・演習・30時間・1単位	教員名	
概要 及び 目的	子どもの保健で学んだ知識をもとに、子どもの健康管理や発育発達に応じた養護、健康上の問題が生じた場合の適切な対処方法など保育現場での実践能力を養う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの健康管理や発育発達に応じた養護内容を理解している。</li> <li>・健康上の問題が生じた場合の対処方法を説明できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康と保育の環境</li> <li>2. 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康</li> <li>3. 衛生管理</li> <li>4. 事故防止及び安全対策</li> <li>5. 災害への備えと危機管理</li> <li>6. 体調不良や障害が発生した場合の対応</li> <li>7. 救急処置及び救急蘇生法</li> <li>8. 感染症の集団発生と予防</li> <li>9. 保育における保健的対応の基本的な考え方</li> <li>10. 3歳未満児への対応</li> <li>11. 個別的な配慮を有する子どもへの対応</li> <li>12. 障害のある子どもへの対応</li> <li>13. 職員間の連携・協働と組織的取組</li> <li>14. 保育における保健活動の計画及び評価</li> <li>15. 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携</li> </ol>		
評価方法	1. 試験（100％）		
テキスト	プリント配布 「こどもの保健 演習」中山書店		
備考	演習は、グループに分かれて行う予定です。動きやすい服装で参加してください。		

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育実習 I ・施設</b> 必修・実習・90 時間・2 単位	教員名	太田 修平
概要 及び 目的	<p>児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら授業を通して学んだ知識等を用いて、利用児・者や施設に関する基本的な理解、利用児・者に対する基本的な支援、保育士の職業倫理、職員間の連携について体験を通して学んでいき、自己理解を深めていく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児・者への理解を深めることを通して基本的な支援方法を身につける。</li> <li>・児童福祉施設等の役割や機能を実践的に理解する。</li> </ul>		
授業内容	<p>児童福祉施設等での実習を通して、次の内容を学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設における利用児・者の生活の理解と支援 <ol style="list-style-type: none"> <li>①生活を通じた利用児・者の理解</li> <li>②利用児・者の個々の状態に応じた支援に関する理解</li> <li>③施設での生活と利用児・者の理解をふまえた支援</li> </ol> </li> <li>2. 施設の役割と機能の理解</li> <li>3. 保育士の職務内容、役割、職業倫理の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育士の職務内容</li> <li>②保育士の役割と職業倫理</li> </ol> </li> <li>4. 自己理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>①実習内容と学びの記録</li> <li>②体験的理解と福祉観の変革・再構築</li> <li>③記録に基づく省察・自己評価</li> </ol> </li> </ol>		
評価方法	<p>実習施設による評価（80%） 担当教員による評価（20%）</p>		
テキスト	<p>岡山県保育士養成協議会編「施設実習の手引き」 必要に応じて資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育実習Ⅰ・保育所</b> 必修・実習・90時間・2単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子
概要及び目的	<p>保育所での保育士および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、保育所における保育士の専門性、役割や機能を理解させると同時に子どもへの理解や職員間の協働性のあり方を模索させる。また、理論を実践の場で具体化することを目的に、保護者の良きパートナーとなり、生活習慣等の自立への支援や、乳幼児の関わり方など、体験を通して理解できるようにする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の役割や機能を具体的に理解している。</li> <li>・子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深めることができる。</li> <li>・保育の計画や保育に関して総合的に理解し指導計画を立案できるようになる。</li> <li>・保育士の業務や職業倫理を理解している。</li> </ul>		
授業内容	<p>&lt;保育所&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割と機能</li> <li>2. 子どもへの理解・発達年齢の把握</li> <li>3. 保育内容・保育環境</li> <li>4. 保育の実践・記録</li> <li>5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理</li> </ol>		
評価方法	実習園による評価(100%)		
テキスト	<p>岡山県保育士養成協議会編「保育実習の手引き」 教科書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領&lt;原本&gt; その他必要に応じて資料を配布</p>		
備考			



年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育実習指導Ⅰ・施設</b> 必修・演習・45 時間・1 単位	教員名	太田 修平
概要 及び 目的	保育実習の意義・目的を明確にすることともに障害児（者）施設における保育実習の必要性や保育士の担う役割を学ぶ。または、障害児（者）施設の体系や法的根拠についても理解を深め、保育実習を行う上で必要となる知識を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の意義・目的を明確にして、施設実習に必要な知識を身につける。</li> <li>・実習に向けた自己課題を形成していく。</li> </ul>		
授業内容	<p>1. 事前指導として学内において講義や演習を行い、実習施設での事前訪問等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 実習に関するオリエンテーション</li> <li>② 実習施設へ提出する書類作成</li> <li>③～④ 利用児・者や実習施設に関する基本的な理解</li> <li>⑤～⑦ 実習課題の作成</li> <li>⑧ 事前訪問に関するオリエンテーション</li> <li>⑨～⑬ 事前課題の作成</li> <li>⑭～⑮ 実習に向けての心構え、個人のプライバシーの保護と守秘義務、利用児・者の人権尊重について</li> <li>⑯～⑰ 実習日誌の書き方</li> <li>⑱～⑲ 実習に向けての準備</li> <li>⑳ 実習に向けての指導</li> </ul> <p>2. 実習中の巡回指導</p> <p>3. 実習終了後に、事後指導として実習をふり返り、新たな目標を明確化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>㉑ お礼状の作成・発表準備</li> <li>㉒ ふり返り発表</li> <li>㉓ 実習評価による今後の課題設定</li> </ul>		
評価方法	出席点 (40%) 提出物 (40%) 受講態度 (20%)		
テキスト	岡山県保育士養成協議会編 「施設実習の手引き」 その他：必要に応じて資料配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育実習指導Ⅰ・保育所</b> 必修・演習・45時間・1単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子
概要及び目的	<p>①保育実習の意義・目的を明確にする。          ②保育実習の必要性や保育士の担う役割を学ぶ。          ③子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。          ④実習の計画・実践・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。          ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習に必要な心構えや知識を身につける。</li> <li>・保育所等の役割について具体的に理解し、実習担当年齢の子どもの発達や遊びについての理解を深める。</li> <li>・実習の振り返りから自身の課題を明確にし今後の実習に繋げる。</li> </ul>		
授業内容	<p>1～5. 事前指導として学内において講義や視聴覚学習を用いた演習を行い、保育所の見学・オリエンテーション等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育実習の意義・目的・内容の理解</li> <li>2) 保育園・こども園等の施策に関する法律・制度の理解</li> <li>3) 保育実習の方法の理解</li> <li>4) 実習の心構えの理解、とくに個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解</li> </ol> <p>6. 提出書類の作成</p> <p>7.8. 実習における計画と実践・観察と記録及び評価</p> <p>9. 実習記録の意義・方法の理解</p> <p>10～16. 指導案、保育教材作成をして模擬保育</p> <p>17. 実習課題の明確化</p> <p>18. 実習園の理解</p> <p>19. 教材の作成</p> <p>20. 実習内容の準備</p> <p>《実習中に巡回指導を行い、実習園の担当者との連携を図る。》</p> <p>21～23. 実習終了後に、事後指導として実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ふり返し発表</li> <li>2) 実習評価による今後の課題設定</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実技試験 (30%)</li> <li>2. 課題提出 (30%)</li> <li>3. 出席点 (25%)</li> <li>4. 受講態度 (5%)</li> </ol>		
テキスト	<p>岡山県保育士養成協議会編 「保育実習の手引き」          その他：必要に応じて資料配布</p>		
備考			

年次・学期	1年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育実践演習Ⅰ</b> 必修・演習・45時間・1単位	教員名	児童福祉学科教員
概要及び目的	<p>保育者は、豊かな教養と高い人格的資質を備え、専門的知識、技術を身に付けていることが求められる。そこで、研究意欲に支えられたそれらの総合的な能力の素地を培うために、学生は、オペレッタ・創作劇などから選択し、主体的、自発的にそれぞれのグループ活動に取り組む。</p> <p>また、学院祭・ボランティア活動・子育て支援活動において研究の成果を発表する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽、造形、言語などの表現活動を通して感性を磨くとともに、基礎的な知識や技能を学び、それらを自身の表現活動に展開することができる。</li> <li>・自分の役割に責任と自覚を持ち、仲間と協働して作り上げる喜びを味わう。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・発表内容希望調査</li> <li>2. 発表内容検討</li> <li>3. チーム発表内容決定・練習</li> <li>4～7. 小道具等製作・練習</li> <li>8. 各チーム発表</li> <li>9. 演劇鑑賞（時期未定）</li> <li>10～14. 小道具等製作・練習</li> <li>15. 通し練習</li> <li>16・17. リハーサル</li> <li>18・19. 小道具等製作・練習</li> <li>20・21. 通し練習・小道具等製作</li> <li>22・23. リハーサル</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題への取り組み、製作物、課題発表など総合的に評価（70%）</li> <li>2. 出席点（25%）</li> <li>3. 受講態度（5%）</li> </ol>		
テキスト	必要に応じて資料を配布する		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育実践演習Ⅱ</b> 必修・演習・45時間・1単位	教員名	児童福祉学科教員
概要及び目的	各教員が担当する研究内容の中から選択し、主体的・自主的にそれぞれの研究課題に取り組む。研究の成果を抄録にまとめ、発表を行う。研究・発表を通じ、保育者として幅広い能力を身につける。		
到達目標	各自の研究課題に取り組む中で、知識を深め、発表することができる。		
授業内容	<p>設定された科目の中から、学生自身が興味関心を持っている内容を研究の課題として1つを選び取り上げ、文献研究やアンケート調査、実習での実践など、研究課題に関する知識を深め、発表を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・アンケート</li> <li>2・3. 研究課題の検討</li> <li>4～7. 保育実践を通しての研究</li> <li>8・9. 研究課題の検討</li> <li>10～18. 研究課題による研究</li> <li>19. 研究、抄録原稿提出</li> <li>20. 製本・発表原稿・パワーポイント提出</li> <li>21. リハーサル</li> <li>22～23. 発表</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題への取り組み、製作物、課題発表など総合的に評価(80%)</li> <li>2. 出席点(10%)</li> <li>3. 受講態度(10%)</li> </ol>		
テキスト	必要に応じて資料を配布する		
備考	(予定) 8回目 研究希望アンケート調査 9回目 担当教員決定		

年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>障害児の心理</b> 選択必修・講義・30時間・2単位	教員名	片山 雅博 他
概要及び目的	本講義は、各障害の概念（状態像）や必要な援助について理解を深めるとともに、児童虐待などによる愛着や行動上の問題を理解し、発達の視点からみた障害の意味について考えることを目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各障害の概念（状態像）や必要な援助について理解している。</li> <li>・児童虐待などによる愛着や行動上の問題を理解している。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 視覚</li> <li>2. 肢体不自由、重度・重複障害</li> <li>3. 発達障害「ASD－自閉症スペクトラム障害」</li> <li>4. 病弱</li> <li>5. 発達障害「ADHD－注意欠陥多動性障害とLD－学習障害」</li> <li>6. 聴覚障害</li> <li>7. 構造化</li> <li>8. 子どもの虐待① 児童虐待とそのリスク</li> <li>9. 障害の受容と自立</li> <li>10. グループワーク「発達障害のある子どもへの対応」</li> <li>11. 知的障害</li> <li>12. 子どもの虐待② 虐待の影響について</li> <li>13. 家族支援</li> <li>14. テスト</li> <li>15. 解説</li> </ol>		
評価方法	試験（100%）		
テキスト	必要に応じて資料を配布する その都度、関連資料を配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>障害児の病理と保健</b> 選択必修・講義・15時間・1単位	教員名	
概要及び目的	心身に障害をもつ子どもたちの病理とそれに関連する身体のメカニズムを解説し、保育士として心身障害児を保育する上で必要な基礎的知識を学習する。		
到達目標	・重症心身障がい児を支援する上での基礎的知識を理解している。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 重症心身障害児の概念と定義</li> <li>2. 重症心身障害児の診断と評価</li> <li>3. 重症心身障害児の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>①重症心身障害児の発生と原因</li> <li>②重症心身障害児・者の予後</li> <li>③動く重症心身障害児</li> </ol> </li> <li>4. 重症心身障害児の主病態と留意点 <ol style="list-style-type: none"> <li>①脳性麻痺</li> <li>②知的障害</li> <li>③てんかん</li> <li>④心理、行動の問題</li> </ol> </li> <li>5・6. 重症心身障害の主症状と留意点 <ol style="list-style-type: none"> <li>①運動、姿勢の障害</li> <li>②呼吸障害</li> <li>③摂食障害</li> <li>④排泄障害</li> <li>⑤コミュニケーション障害</li> <li>⑥行動障害</li> <li>⑦その他</li> </ol> </li> <li>7. 重症心身障害児への支援 家族支援</li> <li>8. まとめとテスト</li> </ol>		
評価方法	試験（100％）		
テキスト	必要に応じて資料を配布する 松本昭子、土橋圭子編著「発達障害児の医療・療育・教育」金芳堂		
備考			

年次・学期	1年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>家庭生活基礎</b> 選択必修・講義・30時間・2単位	教員名	児童福祉学科教員
概要及び目的	<p>学生自身の生活の場や就業先で活かすとともに、保育士として対象となる子ども等への手本となれるよう学習を進める。</p> <p>①生活全般に関わる身につけたい基礎的な事柄を学び修得する。人と関わる上での所作や技術、日常生活を営む上での一般的教養を学ぶ。</p> <p>②伝承行事をグループにより学習する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活上の基本的マナーを理解し、活用することができる。</li> <li>・昔から伝わる季節ごとの行事を説明できる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・伝承行事について・伝承行事調べ</li> <li>2. 伝承行事調べ</li> <li>3. 伝承行事 ①</li> <li>4. マナー（生活基礎力講座・所作・SNS利用・電話対応 など）</li> <li>5. 伝承行事 ②</li> <li>6. マナー（手紙の出し方 など）</li> <li>7. 環境整備・実践①</li> <li>8. マナー（お茶の出し方 など）</li> <li>9. マナー（手紙の出し方 など）</li> <li>10・11. 伝承行事 ③</li> <li>12・13. マナー（茶道）</li> <li>14. 伝承行事 ③</li> <li>15. 環境整備・実践②</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席点(80%)</li> <li>2. 授業態度(20%)</li> </ol>		
テキスト	資料配布		
備考	専門講師による授業や、学外活動を含みます		

年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>リハビリテーションの理論と技法</b> 選択必修・演習・30時間・1単位	教員名	
概要 及び 目的	<p>医学・教育・職業及び社会的側面からリハビリテーションについての基本的知識を学ぶ。 障害児・者の自立に向けた社会資源や援助方法を学んでいき、障害児・者の障害及びニーズを理解していく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児・者のリハビリテーションについての基本的知識を理解している。</li> <li>・利用児者の障害に応じた、支援の方法を考えることができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法概論</li> <li>2. 言語療法概論</li> <li>3. 身体障害者のリハビリテーション</li> <li>4. 小児の言語療法</li> <li>5. 小児の作業療法</li> <li>6. 重症心身障害の作業療法</li> <li>7. 小児の理学療法</li> <li>8. 発達障害の言語療法</li> <li>9. 発達障害の作業療法</li> <li>10. 高齢者のリハビリテーション</li> <li>11. 理学療法概論</li> <li>12. 概論 日常生活動作・自助具紹介</li> <li>13. 食べる機能の発達①</li> <li>14. 食べる機能の発達②</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
評価方法	試験（100%）		
テキスト	その都度、関連の資料を配布		
備考			



年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと感情理解</b> 選択必修・講義・30時間・2単位	教員名	野村 恵里
概要及び目的	<p>5領域の基礎となる3つの柱となる力を育てるために必要な子どもの感情を理解する力、表現する力、受容する力を身に付ける。</p> <p>1) 乳幼児期の感情の発達を理解する。 2) アンガーマネジメントを知る。 3) 子どもの感情理解の重要性を理解する。 4) コミュニケーションの技術を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>1) 喜怒哀楽(感情)について理解し、表現方法を身に付ける。 2) アンガーマネジメントの理論、実践ワークを通して怒りについて理解する。 自分の怒りのタイプを知り、対処法について考える。 3) 子どもの感情を理解することの重要性を説明できる。 子どもの感情に寄り添った言葉かけを考え言語化できる。 4) ワークショップを通して、実践的に感情について理解できる。</p>		
授業内容	<p>1. 自分の気持ちを大切に 2. 喜怒哀楽 3. 喜怒哀楽を学ぶ視聴教材 4. // 5. 子どもはなぜ怒るのか 6. 怒りのタイプを診断する 7. アンガーマネジメント3つのコントロール 8. アンガーマネジメントを教える時のポイント 9. 声かけの6つのステップ 10. コミュニケーションランプ体験 11. 子どもが自分の怒りをコントロールするために 12. アンガーマネジメント実践編① 13. // ② 14. 保護者に伝えたい子どもが怒った時の対応 15. まとめ・テスト</p>		
評価方法	<p>1. 試験 1 + 2 (70%) 2. 出席点 3. レポート 3 + 4 (30%) 4. グループ活動と発表</p>		
テキスト	<p>教科書：野村恵里「保育者のための子どもの「怒り」へのかかわり方」中央法規出版 その他必要に応じて資料プリントを配布 &lt;参考図書&gt; 野村恵里「すぐに保育に使える！ 子どもの感情表現を育てるあそび60」中央法規出版</p>		
備考			

年次・学期	1年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと音楽表現A</b> 選択必修・演習・60時間・2単位	教員名	井上 弥生・岡 陽子・大下 諭史 竹原 裕子・土倉 絢子 西本 潤子・福島 悦子
概要及び目的	<p>簡易伴奏から自分なりの伴奏、アレンジまで弾き方をきれいに心こめて演奏できるようになることを目的とする。ピアノや歌唱等を通して、保育の実践展開のための音楽の技能を培い、基本となる音楽の諸要素（リズム、ハーモニー、メロディー、フレーズ等）を体得する。</p> <p>個人レッスンで、それぞれに応じたクラシック様式の教材を用いて、ピアノの基本的な演奏法を習得する。童謡・唱歌の弾き歌いもおこない、コード・ネームを使った伴奏法も理解できるようにする。ソルフェージュはグループレッスンでおこなう。</p>		
到達目標	ピアノの基礎教本の演奏、保育園で歌われる曲の弾き歌いをすることができる。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（教員紹介・課題確認等）、担当教員別にピアノレッスン（個人）・ソルフェージュ（前半後半に分かれグループレッスン）</li> <li>2～8. 各個人のレベルに合わせたレッスン。ソルフェージュ（歌い方・音程練習）。</li> <li>9. 各個人のレベルに合わせたレッスン。ソルフェージュ。 試験についての説明。</li> <li>10～13. 各個人のレベルに合わせたレッスン。ソルフェージュ。</li> <li>14・15. 実技試験・提出課題。</li> <li>16. 課題確認・各個人のレベルに合わせたレッスン。ソルフェージュ。</li> <li>17～23. 各個人のレベルに合わせたレッスン。ソルフェージュ。</li> <li>24. 各個人のレベルに合わせたレッスン。ソルフェージュ。 試験についての説明。</li> <li>25～28. 各個人のレベルに合わせたレッスン。ソルフェージュ。</li> <li>29・30. 実技試験・提出課題。</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験 前期・後期（ピアノ曲・童謡・唱歌の弾き歌い・提出課題）（90%）</li> <li>2. 出席点（5%）</li> <li>3. 受講態度・弾き歌いチェックリスト進捗（5%）</li> </ol>		
テキスト	<p>教科書：小林美実監修、井戸和秀編『こどものうた100』チャイルド社          その他：レベルに応じたピアノ教本を各自購入          ソルフェージュプリント配布</p>		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと音楽表現B</b> 選択必修・演習・30時間・1単位	教員名	井上 弥生・大下 諭史 大村 由美子・三徳屋 直子・竹原 裕子 西本 潤子・松田 美佐枝 山地 希美
概要 及び 目的	ピアノ等の楽器演奏や歌唱を通じて、保育の実践展開のための音楽の技能を培い、基本となる音楽の諸要素（リズム、ハーモニー、メロディー、フレージング等）を体得する。 「子どもと音楽表現A」で習得した技術を基に、曲のジャンルを問わず選曲し、演奏する。		
到達目標	ピアノ等の楽器演奏、弾き歌いをする事ができる。		
授業内容	1. オリエンテーション（教員紹介・課題確認等）、担当教員別に分かれ、 レッスン（個人）・ソルフェージュ（前半後半に分かれグループレッスン） 2～8. 各個人のレベルに合わせたレッスン。ソルフェージュ（歌い方・音程練習）。 9. 各個人のレベルに合わせたレッスン。ソルフェージュ。 試験についての説明。 10～13. 各個人のレベルに合わせたレッスン。ソルフェージュ。 14・15. 実技試験		
評価方法	1. 試験 前期・後期（ピアノ等の楽器演奏・童謡・唱歌の弾き歌い）（90%） 2. 出席点 （5%） 3. 受講態度・弾き歌いチェックリスト進度（5%）		
テキスト	教科書：「こどものうた 130 + 20」YAMAHA その他：レベルに応じたピアノ教本を各自購入 ソルフェージュプリント配布		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと造形表現</b> 選択必修・演習・30時間・1単位	教員名	野村 恵里
概要 及び 目的	<p>領域「表現」に関する、造形の活動において物を作る活動・表現行為の中から、創作表現の喜びを味わう</p> <p>1) 保育者としての援助の在り方、保育教材の製作をする。</p> <p>2) 様々な造形教材(素材)を用いて、作成、手法を体験する。</p>		
到達目標	保育現場で必要となる造形の知識・技術をお身に付け、様々な造形教材(素材)を生かした製作ができる		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 模擬保育とは</li> <li>2～5. 保育教材の制作</li> <li>6. 作って遊べる玩具作り</li> <li>7. 様々な材料を使った造形</li> <li>8. //</li> <li>9. 行事に活かせる作品作り</li> <li>10. //</li> <li>11. 保育教材制作(シアター)</li> <li>12. //</li> <li>13. //</li> <li>14. //</li> <li>15. まとめ・テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試験</li> <li>2. 出席点</li> <li>3. 作品</li> <li>4. レポート</li> </ol>	<p>1 + 2 (20%)</p> <p>3 + 4 (80%)</p>	
テキスト	樋口 一成「幼児造形の基礎 乳幼児の造形表現と造形教材」萌文書林 その他必要に応じて資料プリントを配布		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>子どもと体育</b> 選択必修・演習・30時間・1単位	教員名	秋政 邦江
概要及び目的	<p>「子どもと体育」の授業では、幼児のケアと発達支援に必要な身体運動に関する基本的な知識を理解して、身体能力や運動技能を高めるとともに、幼児が楽しめる運動遊びに関する教材を作成し、それらに必要な知識や技能を習得する。</p> <p>また、幼児の成長過程における多様な表現を理解し、運動遊びや身体表現による創造性育成の意義を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>実際の現場で取り上げられる運動遊びや身体表現を行う時の安全を配慮した教材を作成し、それらに必要な知識と技能を習得し、幼児のケアと発達支援の実践に応用することを目指す。</p>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・子どもの身体発育や運動機能についての理解</li> <li>2. 体づくりとストレッチ</li> <li>3. 子どもの身体機能の発達と運動遊びの意義</li> <li>4. 歩く・走る・跳ぶ運動遊び</li> <li>5. 縄遊び・長縄遊び</li> <li>6. 子どもの主体性を引き出す運動（心と体の健康）</li> <li>7. 鬼遊び</li> <li>8. 手具を使用した運動遊びと指導、使用</li> <li>9. 伝承遊び</li> <li>10. 生命感としてのダンスリズム運動</li> <li>11. ボール遊びのルールと安全対策の指導</li> <li>12. フープ遊びのルールと安全対策の指導</li> <li>13. 手具と身体表現</li> <li>14. 集団遊びの作成</li> <li>15. 集団遊びの実際</li> </ol>		
評価方法	<p>レポート課題（プログラム作成）（30%）          プレゼンテーション（60%）          授業への参加と協力度</p>		
テキスト	<p>表現とこどもの運動          内閣府・厚生労働省、文部科学省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」          厚生労働省「保育所保育指針解説書」フレーベル館（最新版）</p>		
備考	<p>遅刻・早退・見学は3回で欠席1回とする</p>		

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育内容応用演習</b> 選択必修・演習・60時間・2単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子 ほか
概要 及び 目的	<p>1. 養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性を持つことへの理解また、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>2. 子どもの発達を保育所保育指針における乳児保育の3つの視点（「健やかにのびのびと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と1歳以上3歳未満及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域（「健康・人間関係・環境・言葉・表現」）を通して捉える。そして、現場の経験がある教員から具体的に子どもの生活や遊びについて学び、子どもに対する理解を深める。</p> <p>3. 保育を行うにあたって保育士が留意・配慮すべき事項を具体的に理解する。</p> <p>4. こども能力発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら環境の構成、教材や遊具などの活用と工夫、保育の過程（計画・記録・実践・省察・評価・改善）等の実際について理解する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育を総合的に理解し、多くの実践例から保育のあり方について多方面から知識を習得する。</li> <li>・様々な、実践や体験を通して保育場面を想定し環境構成や、教材の実際を作成できる。</li> </ul>		
授業内容	<p>エプロンシアター・人形劇・演劇・器楽演奏など、ロールプレイでの授業方法等を活用して演じ方の習得をしていく。実際に、劇団の演じ手から指導を受け、具体的に学ぶ。</p> <p>1～3. 遊びの導入・指導方法について学び、表現力や演技力を磨く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わらべ歌・ふれあい遊び・集団あそびなど導入の仕方と指導方法を学ぶ。</li> <li>・発達に即した遊びを理解し、遊びを習得することで、子どもと楽しむ遊びの実践について学ぶ。</li> <li>・いろいろな場面の導入方法を学ぶ。</li> </ul> <p>4・5. 子どもと楽しむサッカーを実践から学ぶ。</p> <p>6・7. 教員による実践例を見て、グループ討議をする中で具体的な技術知識を習得する。</p> <p>8・9. 保育や子育て家庭に対する対応・支援のあり方を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークを通して、子どもを取り巻く社会的状況の理解と子どもの背景について学びあい、具体的な支援のあり方、保護者対応について実践例から学ぶ。</li> </ul> <p>10・11. 子どもの自己肯定感を築くための、保育現場における言葉かけの実際を学ぶ。（園見学など）</p> <p>12・13. 保育現場でのヒヤリハットから子どもの安全について学ぶ。（救命救急講習など）</p> <p>14. 子ども同士のトラブルなどの対処の仕方について事例から学ぶ。</p> <p>15. 保育現場に働く保育士としての基礎知識や、道徳性・規範性を養う。また、保育士の倫理について学ぶ。</p> <p>16・17. 発表行事に向けての練習 配役・パート決めなど</p> <p>18～21. 発表行事に向けての練習 個人練習・パート練習など</p> <p>22. 会場設営</p> <p>23・24. 本番会場での練習</p> <p>25～27. 全体練習、通し練習</p> <p>28. リハーサル</p> <p>29・30. 片付け・反省会</p>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内の実践・演習、およびレポート提出（50%）</li> <li>2. 授業に取り組む姿勢（20%）</li> <li>3. 出席点（30%）</li> </ol>		
テキスト	必要に応じてプリント配布		
備考			

年次・学期	2 年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育実習Ⅱ</b> 選択必修・実習・90 時間・2 単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子
概要 及び 目的	<p>保育所やこども園での保育士および実習生指導の経験がある教員、児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、実際の保育現場において保育実習Ⅰを基礎として、次のことを指導する。</p> <p>①保育の基本的な役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。  ②子どもにとっての環境に視点を持ち、観察や関わりを通して保育の理解を深める。  ③保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。  ④諸教科で学んだ理論との関連性を見出し、保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。  ⑤保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益について学ぶ。  ⑥実習における自己課題を明確化する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所等の役割や機能について実践を通して理解する。</li> <li>・自分で指導案を作成し、半日実習や一日実習に取り組み、実践力を高めることができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所の役割や機能の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 養護と教育が一体となって行われる保育</li> <li>(2) 保育所の社会的役割と責任</li> </ol> </li> <li>2. 観察に基づく保育理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもの心身の状態や活動の観察</li> <li>(2) 保育士等の動きや実践の監察</li> <li>(3) 保育所の生活の流れや展開の把握</li> </ol> </li> <li>3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解</li> <li>(2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援</li> <li>(3) 地域社会との連携</li> </ol> </li> <li>4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解</li> <li>(2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価</li> </ol> </li> <li>5. 保育士の業務と職業倫理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な保育の展開と保育士の業務</li> <li>(2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理</li> </ol> </li> <li>6. 自己の課題の明確化</li> </ol>		
評価方法	実習施設による評価(100%)		
テキスト	<p>教科書：岡山県保育士養成協議会編「保育実習の手引」  幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領&lt;原本&gt;  その他：必要に応じて資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育実習Ⅲ</b> 選択必修・実習・90時間・2単位	教員名	太田 修平
概要 及び 目的	<p>これまでの実習を踏まえた総仕上げの実習として位置づけられる。</p> <p>児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、保育実習Ⅰで習得した知識や技術を踏まえて、利用児・者に対する個別的な支援の実践をしていく。</p> <p>実践を通して、利用児・者に関わるために必要な態度と技術を習得することを目指していく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの利用児・者に応じた個別的な支援を実践していく。</li> <li>・保育士にとって必要な態度と技術を習得していく。</li> </ul>		
授業内容	<p>児童福祉施設等での実習を通して、次の内容を学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個別的な支援の実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの利用児・者の特性に応じた個別的な支援を実践する。</li> </ul> </li> <li>2. 保育士の態度と技術の習得 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児・者との信頼関係を結ぶために必要な態度や技術を学ぶ。</li> <li>・利用児・者の支援、多様な専門職との連携・協働を学ぶ。</li> </ul> </li> <li>3. 自己課題の明確化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践を通して、保育士として必要な自己の課題を探す。</li> </ul> </li> </ol>		
評価方法	<p>実習施設による評価（80％） 担当教員による評価（20％）</p>		
テキスト	岡山県保育士養成協議会編 「施設実習の手引」		
備考			



年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育実習指導Ⅱ</b> 選択必修・演習・45時間・1単位	教員名	児童福祉学科教員
概要及び目的	<p>保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学び、実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえ保育実践力を培う。</p> <p>保育実習Ⅰの取り組みをふまえ、保育士の専門性と職業倫理について理解する。又実習事後指導を通して総括と自己評価を行い、課題や認識を明確にする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰの経験をふまえ、自己課題を明確にして指導案に基づいた実践に取り組む。</li> <li>・実習の体験や学びを発表し合うことにより、様々な視点から保育を考えることができる。</li> </ul>		
授業内容	<p>1～3. 保育実習による総合的な学び  (1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解  (2) 子どもの保育と保護者支援</p> <p>4.5. 保育実践力の育成  (1) 子どもの状態に応じた適切なかかわり  (2) 保育の表現技術を生かした保育実践</p> <p>6. 保育実践に向けた保育内容の研究</p> <p>7～10. 指導案作成、教材作成、模擬保育</p> <p>11～14. 計画と観察、記録、自己評価  (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践  (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善</p> <p style="text-align: center;">《保育士の専門性と職業倫理》  《実習中に巡回指導を行い、担当者との連携をもとに、実習生へ助言を行う》</p> <p>15～20. 事後指導における実習の総括と評価  (1) 実習の総括と自己評価  (2) 課題の明確化</p> <p>21～23. 振り返り発表</p>		
評価方法	<p>1. 実技試験 (30%)  2. 実習日誌・実習報告書提出 (30%)  3. 報告会の発表 (10%)  4. 出席点・受講態度 (30%)</p>		
テキスト	<p>教科書：岡山県保育士養成協議会編「保育所実習の手引き」  幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領&lt;原本&gt;  その他：必要に応じて資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	2年次・通年	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育実習指導Ⅲ</b> 選択必修・演習・45時間・1単位	教員名	児童福祉学科教員
概要及び目的	<p>この科目は、保育実習Ⅲに向けた事前指導・事後指導を目的としている。 児童福祉施設等における施設実習を通して、より高い専門性を身につけるための準備を進めていく。 児童養護施設等の役割と機能、利用児・者の特性に応じた支援を理解していき、自己の問題意識を深めていく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な支援を学ぶために必要な知識を身につける。</li> <li>・施設実習に対する自己の問題意識を深める。</li> </ul>		
授業内容	<p>1. 事前指導として学内において講義や演習を行い、実習施設での事前訪問等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 実習に関するオリエンテーション</li> <li>② 実習施設へ提出する書類作成</li> <li>③ 利用児・者や実習施設に対する理解</li> <li>④～⑦ 実習課題の作成</li> <li>⑧～⑨ 個別的な支援について</li> <li>⑩～⑪ 実習日誌の書き方</li> <li>⑫～⑬ 事前課題の作成・レクリエーション等の準備</li> <li>⑭ 実習に向けての指導</li> </ul> <p>2. 実習中に巡回指導の実施。</p> <p>3. 実習終了後に、事後指導として実習をふり返り、新たな目標を明確化にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑮ お礼状の作成</li> <li>⑯ 実習評価を通じたふり返り</li> <li>⑰～⑳ 保育実習報告会の準備</li> <li>㉑ 保育実習報告会</li> </ul>		
評価方法	<p>出席点 (40%) 提出物 (40%) 受講態度 (20%)</p>		
テキスト	岡山県保育士養成協議会編 「施設実習の手引」		
備考			

年次・学期	1年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>施設基礎実習</b> 選択必修・実習・90時間・2単位	教員名	太田 修平
概要及び目的	<p>児童福祉施設で指導員および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、実習現場で保育士として勤務する現場指導者と連携しながら、利用児(者)との触れ合いを通して、施設での一日の様子を知る。</p> <p>障害児(者)に対して保育士としてどのような関わりができるのかを学び、2年次の「保育実習I・施設」に向け、福祉施設・利用児(者)・保育者について具体的なイメージを持つ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設での利用児(者)の一日を知る。</li> <li>・保育者と利用児(者)との関わり方を学ぶ。</li> <li>・施設の様々な職種に関心を持つ。</li> </ul>		
授業内容	<p>1・2・3 障がい者スポーツ大会ボランティア体験 4 実習についてオリエンテーション・配属先発表 5 実習施設へ提出する書類作成 6・7 実習施設について調べ学習 8 実習課題の説明および作成 9・10 旭川荘資料館見学 11～13 実習課題作成 14～17 介護技術演習 16・17 実習課題作成 18 事前訪問について説明 19・20 事前訪問・実習課題作成 21～23 実習課題作成 24 実習に向けての指導・日誌の書き方 25 日誌の書き方 26～40 各施設での実習(3日間) 41 実習振り返り・報告会準備 42 報告会準備 43・44 施設実習報告会 45 テスト</p>		
評価方法	<p>1 実習評価(50%) 2 テスト(40%) 3 出席・授業態度(10%)</p>		
テキスト	資料配布		
備考	介護技術演習は吉井川キャンパスにて実施		

年次・学期	1年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>保育所基礎実習</b> 選択必修・実習・90時間・2単位	教員名	室崎 美佐子・小合 明美 西原 嘉子
概要及び目的	<p>保育所での保育士および実習生指導の経験がある教員が現場での経験を生かして、現場指導者と連携しながら、保育所での参加型実習を通して、保育士の役割や子どもの一日の園生活の流れを知る。</p> <p>また、子どもの発達やあそび等について保育園の環境構成について学び、2年次の「保育実習Ⅰ・保育所」に向け、保育所・子ども・保育士について具体的なイメージをもつ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所での子どもの一日を知る。</li> <li>・保育者と子どもの関わりを学ぶ。</li> <li>・保育所の様々な職種に関心を持つ。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習前 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の役割や機能</li> <li>・保育所の日</li> <li>・子どもの発達</li> <li>・保育士の仕事</li> </ul> </li> <li>2. 実習中 <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・参加に基づく保育理解 子どもの心身の発達や活動の観察や理解 保育士等の動きや実践の観察 保育所での子どもの一日の生活を観察する 絵本を読む、手あそび等、実践する</li> <li>・観察記録</li> </ul> </li> <li>3. 実習後 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループによる話し合い</li> <li>・実習のまとめ</li> <li>・ふり返し発表</li> <li>・今後の課題の明確化</li> </ul> </li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポート（実習日誌）・提出物（40%）</li> <li>2. 出席点・受講態度（50%）</li> <li>3. 実習評価（10%）</li> </ol>		
テキスト	<p>教科書：岡山県保育士養成協議会編「保育所実習の手引き」 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領&lt;原本&gt; その他：必要に応じて資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	2年次・前期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>レクリエーション援助技術</b> 選択必修・実技・30時間・1単位	教員名	久保園 明美
概要 及び 目的	福祉現場のさまざまな対象者について理解を深め、対象者に合ったレクリエーションのプログラム作りから実践までの力を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な遊びやレクリエーション体験を通して、種類や注意すべき事、及び配慮点などを学ぶことができる。</li> <li>・対象者に合わせたアレンジ方法を身につけることができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 遊びやレクリエーションの体験①</li> <li>3. 遊びやレクリエーションの体験②</li> <li>4. グループワークトレーニング①</li> <li>5. グループワークトレーニング②</li> <li>6. 福祉レクリエーション体験</li> <li>7. 身近な物を使った福祉レクリエーションの実践①</li> <li>8. 身近な物を使った福祉レクリエーションの実践②</li> <li>9. アレンジ法①</li> <li>10. アレンジ法②</li> <li>11. クラフト①</li> <li>12. クラフト②</li> <li>13. ボッチャ体験</li> <li>14. //</li> <li>15. テスト</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業中の意欲・態度（60%）</li> <li>2. テスト・レポート・出席状況（40%）</li> </ol>		
テキスト			
備考	運動のできる服装（上下）と体育館シューズを準備すること。 安全面を考慮し、ピアス等の装飾品は外して受講すること。		

年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>障害者スポーツ指導員養成講座</b> 選択必修・講義・15時間・1単位	教員名	上田 千恵 他
概要 及び 目的	<p>老若男女を問わず、人々がスポーツをする目的は、「健康維持・増進」「仲間との交流」「技術を向上させた大会などで試すため」と様々で、健康などに注意が必要な障害がある人のスポーツ活動は、健康な人以上にとっても重要で意味があります。</p> <p>障がいがある人が安心・安全にスポーツを取組める環境、その機会や活動などを理解し、それを支援する知識を深め、振興についても考える。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害と障がいがある人がスポーツを行うこと、障がい者スポーツがどのようなものかについて理解し、その意義と理念についても理解できる。</li> <li>・ 初級パラスポーツ指導員として、どのようなことを考えながら、何を大切にしながら障がい者スポーツを行う現場で活動すればよいのかを考えることができ、ボランティア精神や態度をもって自ら積極的に参画することができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ振興の理由、障がい者のスポーツ大会</li> <li>2. 障がい者スポーツの意義と理念</li> <li>3. 障がい者スポーツ指導とコミュニケーション</li> <li>4. 障がい者スポーツの推進と障がい者スポーツ指導員の参画</li> <li>5. スポーツと安全管理</li> <li>6. 障害の理解</li> <li>7. 障がい者スポーツ指導の基礎</li> <li>8. (公財)日本パラスポーツ協会公認指導者制度</li> <li>9. スポーツの実際</li> </ol>		
評価方法	<p>レポート (40%) 授業参加度 (出席、受講態度など) (60%)</p>		
テキスト	<p>(株)ぎょうせい「障がいがある人のスポーツ指導教本(初級・中級)」 2020年改訂カリキュラム対応</p> <p>必要があれば関連資料を配布</p>		
備考			

年次・学期	2年次・後期	担当科	児童福祉学科
科目名	<b>障害者(者)の音楽活動の支援</b> 選択必修・講義・30時間・1単位	教員名	出口 隆一 他
概要及び目的	<p>発達を「援助する」活動として、音楽を媒体として子ども達の情緒に働きかけて、何かを表現する手段としての音楽を実際に体験する。</p> <p>誰もが自由に楽しめる音楽活動を能動的に捉えることができるようにする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽器演奏法を通して、障害児(者)、園児に対しての支援方法を理解できる。</li> <li>・習得した演奏技術を発表することができる。</li> </ul>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1～2. 旭川荘での音楽を通した活動・内容・目的</li> <li>3. 「和太鼓を通した音楽活動の実際」 和太鼓体験・障害児(者)、園児への指導法</li> <li>4. 和太鼓スキルチェック</li> <li>5. パート分け・練習</li> <li>6. パート練習</li> <li>7. パート練習</li> <li>8. パート練習・全体練習</li> <li>9. パート練習・全体練習</li> <li>10. パート練習・全体練習</li> <li>11. 全体練習・発表に向けての準備</li> <li>12. 全体練習・発表に向けての準備</li> <li>13. 全体練習・発表に向けての準備</li> <li>14. 発表前準備</li> <li>15. 発表</li> </ol>		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席点 (50%)</li> <li>2. 受講態度 (50%)</li> </ol>		
テキスト	必要に応じて資料を配布		
備考			